

特別支援学校における障がい種に応じた 教員の専門性の向上と指導の充実に関する研究

－ 自立活動指導資料（病弱）の作成を通して－

《補助資料目次》

【資料1】病弱教育における教員の専門性に関する調査及び調査結果	1
【資料2】小学部自立活動学習指導案（児童A・児童B）	5
【資料3】小学部「自立活動目標設定シート」（児童A）	22
【資料4】小学部「自立活動目標設定シート」（児童B）	24
【資料5】小学部自立活動学習指導案（児童C）	26
【資料6】小学部「自立活動目標設定シート」（児童C）	39
【資料7】「自立活動指導資料（病弱）」（試案）に関する調査及び調査結果	41

令和6年3月

岩手県立総合教育センター

長期研修生

所属校 岩手県立盛岡青松支援学校

坂倉 智子

【資料1】 病弱教育における教員の専門性に関する調査及び調査結果

I 調査の概要

1 調査名	特別支援学校における障がい種に応じた教員の専門性の向上と指導の充実に係る研究に係る調査
2 目的	病弱教育における教員の専門性についての状況を調査し、その結果を「自立活動指導資料（病弱）」（試案）の作成に役立てる。そして作成した「自立活動指導資料（病弱）」（試案）を活用した授業実践を通して、教員の専門性の向上と指導の充実にを図ることを目的とする。
3 調査期間	令和5年7月24日（月）～8月21日（月）
4 対象	県内の病弱特別支援学校の管理職及び教員
5 方法	Microsoft Forms アプリを使用

II 調査項目

	項目
フェイスシート	ア 学校名・所属学部・名前
質問票	ア 「病弱教育理論」と仮に位置付けた項目について、他に追加・削除すべき専門性とその理由について
	イ 「授業実践」と仮に位置付けた項目について、他に追加・削除すべき専門性とその理由について

「病弱教育における教員の専門性の要素（仮）」

			専門性の要素
病弱教育における教員の専門性	専門的な知識	病弱教育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・病弱教育の基本 (病弱・身体虚弱とは/対象となる障がいの程度) ・主な疾患の基礎的な知識と配慮事項 ・二次的な障がいに対する知識と配慮事項 (発達障がい、被虐待) ・自立活動に関わる知識 (自立活動の意義/6区分27項目の内容/ 個別の指導計画の作成の手順/指導内容及び留意事項) ・病弱の理解と生活規制 (生活管理/危機管理) ・進路指導と指導上の配慮事項 ・病弱者の福祉制度
	専門的な技能	授業実践	<ul style="list-style-type: none"> ・心のケア (病気、学習面、対人面への不安を理解した指導) ・教科指導 (学習空白への配慮/体験学習) ・教材教具の工夫 ・自立活動の個別の指導計画の作成と活用 (実態把握/課題の抽出/目標の設定/6区分27項目を関連付けた指導内容の選定/実践/評価/指導の改善) ・ICTの活用 (遠隔教育/情報活用/間接体験/疑似体験) ・関係機関 (医療/福祉/前籍校) との連携 ・保護者との連携

Ⅲ 調査結果

1 フェイスシート

調査対象 132 名中 122 名から回答を得た。(回収率 92.4%)

項目	回答内容	
学校名	・盛岡となん支援学校 ・盛岡青松支援学校 ・花巻清風支援学校 ・一関清明支援学校 ・釜石祥雲支援学校	回答人数／対象人数 10 / 11 44 / 44 3 / 4 41 / 48 24 / 25
所属学部	・小学部 ・中学部 ・高等部	47 39 36
氏名	氏名の記入をお願いした。	

2 質問票

問1 「病弱教育の理論」について伺います。「病弱教育における専門性の要素（仮）」として、他に追加すべき要素はありますか。ある場合は、追加すべき要素とその理由を御入力ください。

「病弱教育の理論」で追加すべき専門性の要素 (n=122) (自由記述、複数回答あり、原文ママ)

追加すべき専門性の要素	理由
1 家庭支援の在り方 関係各機関との連携の取り方	保護者も精神疾患を抱える場合があり、関係各機関と連携の上、家庭支援を行う必要性が多く見られるため。
2 他職種との連携	子どもの病気治療予定や生活の様子を知るため。
3 疾患のある子どもの家族サポートについて	家庭の協力なしで教育することは、難しいので、家庭と学校との連携について具体的にどうあるべきか把握する必要があると思う。
4 卒業後や他校へ転出した児童生徒に対する支援の在り方	卒業後や他校への支援について、関係機関との連携を含めた組織的な対応の理解が、追加すべき要素であると考えたから。
5 不登校	多くの発達障害、自閉症スペクトラムの児童生徒が陥る状況として、学校の対応のみならず家庭、関係機関と連携する必要があるから。
6 医療的ケア	医療的ケアが必要な児童生徒も在籍していることが多いので、ケアの内容や対応などを知っている事が必要だと思います。
7 医療的ケア	「病弱教育の基本」または「病弱の理解と生活規制」の内容として含まれているのだと思いますが、医療的ケアについてが入っているとよいと思います。
8 医療的ケア児等への対応と体制整備	医療的ケア児は増えており、受け入れ体制を整えるためには様々な確認や連携が必要であるが、現場では担当者しか知らないことが多いから。
9 医療的ケアに関する要素	(理由の記載なし)
10 メンタルケアの知識と対応	他の専門職からのケアもあると思いますが、児童生徒が相談しやすい立場だと思うので、病気や将来の不安に対して寄り添うことができればと思います。
11 心理的ケアに対する知識	様々な不安を解消するための知識や心身症や精神疾患等の子のケアが必要だから。
12 カウンセリングに関する基礎知識	不登校児童生徒に対してカウンセリングが必要と感じる場面があるから。
13 被虐待についての学習	被虐待児の対応は、他の障害とは違うので。
14 情緒の安定について	どの障害においても心理的な安定は重要であるから。
15 「感覚に関する知識」	二次障がいにつながる前の「一次障がい」で、ASD や ADHD の特性に多く見られる、こだわりや感覚過敏・鈍麻、不注意・多動性・衝動性があるからです。基礎感覚と言われる「触覚・固有覚・前庭感覚」のつまずきがあると、あらゆる日常生活や対人関係、学習活動にも多大な影響があるからです。自立活動6区分中の「環境の把握」にも感覚に関する記述がありますが、専門性の要素として取り上げてよいと思います。

16	知的障がいの専門性の要素	重複障がいの児童生徒が増加しているから。
17	社会的スキルの獲得について	社会的コミュニケーションスキルの獲得は最も多く見られる課題である。
18	教育課程の編成について	すでに、内容項目案に「自立活動に関わる知識」が盛り込まれていることから、その前提として、特別の教育課程（病弱教育）についての説明も専門的な知識の視点から必要と考えるため。
19	病弱教育の場-就学について	近年、病気種類の多様化、入院期間の短期化、入退院の頻回化が見られ、総合的な観点から就学先を決定する仕組みの中で、適切な教育措置や柔軟な対応について学ぶ必要があるため。
20	疾患のある人たちの職業、就労について	情報が少ないので、その就労についてあるとよいのではないかと思う。
21	WISC 等の検査の知識(数値の見方など)	実態把握に必要なと思われるから。

問2 「病弱教育理論」について伺います。「病弱教育における教員の専門性の要素（仮）」として、削除すべき要素はありますか。ある場合は、削除すべき要素とその理由を御入力ください。

「病弱教育の理論」で削除すべき専門性の要素（n=122）（自由記述、原文ママ）

削除すべき専門性の要素	理由
1 個別の指導計画の作成手順	あまり突き詰める内容でもないと思うから。

問3 「授業実践」について伺います。「病弱教育における専門性の要素（仮）」として、仮に追加すべき要素はありますか。ある場合は、追加すべき要素とその理由を御入力ください。

「授業実践」で追加すべき専門性の要素（n=122）（自由記述、複数回答あり、原文ママ）

追加すべき専門性の要素	理由
1 障害、病状の理解	自身の障害、病状理解と対処行動を経験・学習する必要がある
2 病状理解について	まずは自分の病状を理解することが自己理解につながると考えるから。
3 病気による姿勢の保持の難しい生徒や長時間の授業に耐えられない生徒についての要素	「心のケア」に当てはまるのか、当てはまらないのか、、、 「教科指導」の（ ）の中に、（病気への配慮）として追加になるでしょうか？
4 こどもの障がいや疾患について	さまざまな実態があると思われるので、実態をどう具体的に捉え、授業に活かすか、把握の仕方がまず不可欠なので、個々の実態把握のあり方があると思う。
5 環境の設定	・教材教具の工夫と合わせて、落ち着いて取り組める場あるいは様々な環境下でも取り組めるようになるための支援や指導が必要だから。 ・安心して学習できる場の保証のため
6 心のケアに、被虐待についての項目を追加する。	ケアの方向が違うと思うので。
7 二次的な障がいに対する支援方法	特性やトラウマ反応等を問題行動としてとらえ、叱責等の強い指導を行ってしまうことも見受けられる。児童生徒の不安に寄り添った対応が指導の基本であると思うから。
8 トラウマインフォームドケア	
9 交流及び共同学習の展開	障がいのある子とない子が共に学ぶためのインクルーシブ教育システム構築が必要だから。
10 病弱と肢体不自由や視覚、聴覚等の重複障がいについて	単一障がいの児童生徒より重複障がいの児童生徒の方が多いのでは？と思うから。ここで述べるべきかどうか分からない。
11 合理的配慮の提供に関する知識及び技能(環境整備、補助具の活用など)	合理的配慮の提供義務が拡大してきているご時世であるが、本人保護者の合理的配慮に対する理解がまだまだ進んでいないから。世の中に通じる合理的配慮に対する知識を我々も持ち合わせる必要があると考えるから。
12 行動の観察および洞察	実践の根拠となる記録や評価をとり、対象の児童生徒に提示すれば、自己理解や振り返りに役立つからです。
13 教科指導の中の項目に金銭管理を追加	卒業後の生活にかかる費用を、授業で指導する必要があるから。
14 道徳活動や総合的な学習の時間等	学校教育活動に含まれるため追加すべき要素ではないかと考えます。

15	関係機関との連携	労働等の進路指導に関する機関が入っているとよいと思います。
16	ソーシャルワーク	関係機関との連携に欠かせないから
17	カウンセリングの技法	本人のケアだけではなく、親、きょうだい児の心のケアをしていくことも大切であり、家族に寄り添っていくためにカウンセリングの基本的な技能が必要だと思うから。
18	集団学習の工夫	ICT の活用に包摂されると思われるが 学びの場の集団構成は少人数のことが多く、ICT 等を活用した交流を行うなど、集団学習と同じような指導効果を高めるための工夫が必要と感じているため
19	学習指導の工夫	教材教具だけではなく、日や時間による体調変化をみながら内容を精選したり変更したりすることが必要と感じるから。
20	病弱と肢体不自由や視覚、聴覚等の重複障がいについて	単一障がいの児童生徒より重複障がいの児童生徒の方が多いのでは？と思うから。ここで述べるべきかどうか分からない。
21	ICT の活用の範疇に在宅ワークの活用を入れたい	現場実習や外での勤務が難しい生徒には、在宅ワークの道も紹介したい

問4 「授業実践」について伺います。「病弱教育における教員の専門性の要素（仮）」として、削除すべき要素はありますか。ある場合は、削除すべき要素とその理由を御入力ください。

「授業実践」で削除すべき専門性の要素（n=122）（自由記述、原文ママ）

削除すべき要素		理由
1	関係機関との連携	授業実践ではあまり触れる機会がないから。

【資料2】 小学部自立活動学習指導案（児童A・児童B）

小学部自立活動学習指導案

日 時：令和5年9月12日（火）4校時
 令和5年9月14日（木）4校時
 令和5年9月14日（木）5校時
 令和5年9月15日（金）5校時
 対 象：岩手県立盛岡青松支援学校
 小学部2名
 場 所：自立活動室
 プレイルーム
 指導者：T1
 T2
 T3

1 単元名「ふわふわことばの名人になろう！」

2 内容のまとめ

- 自立活動 【1健康の保持】 (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。
 (2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。
 【2心理的な安定】 (1) 情緒の安定に関する事。
 【3人間関係の形成】 (1) 他者とのかかわりの基礎に関する事。
 (4) 集団への参加の基礎に関する事。
 【6コミュニケーション】 (1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。
 (2) 言語の受容と表出に関する事。
 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。

3 単元の指導目標

児童	指導目標	【区分（項目）】
AB共通	設定した活動中で、ふわふわことばを2回以上使うことができる。	【3人（1）】 【6コ（1）（2）（5）】
A	設定した活動に、ルールを守って参加することができる。	【2心（1）】【3人（4）】
B	体調カードと気持ちカードの中から自分の体調と気持ちを教師に伝えることができる。	【1健（1）（2）】【2心（1）】 【6コ（1）】

4 単元について

(1) 児童について

- ア 対象児童は、準ずる教育課程に在籍する1名と知的代替の教育課程に在籍する1名である。教育課程は異なるが、自立活動は合同で行うこともある。
- イ 児童Aは、友達と仲良くして、たくさん遊びたいという願いを持っており、休み時間には友達や教師を誘って鬼ごっこやドッジボールなどをして遊んでいる。しかし、精神及び行動の障がい

を有しており、視覚刺激、聴覚刺激に対して多動・衝動性がある。語彙が少なく、自分の気持ちを表現することの苦手さから、ゲームに負けたときや褒められたときに不適切な言動をとることがある。また、勝ちたい気持ちが強く、自分の都合でルールを変えようとすることがある。

ウ 児童Bは、明るく誰にでも好意的であり、言葉でのやりとりが可能である。また、教師や友達と一緒に遊ぶことが好きである。しかし、睡眠困難症があり、安定した睡眠をとることが難しく疲れやすい。疲れているときや自分の思い通りにならないときに友達や先生に対して不適切な言動になりやすい。自分の体調に気付きにくく、休憩を促しても休憩しないことがある。初めてのことや見通しがもちにくいことへの参加は苦手である。また、脳の病気を有しており、頭痛や吐き気を起こしたり、てんかんの症状が見られたりすることもあるため、見守りが必要である。

エ 2名とも、友達や教師と関わりたい気持ちがある。体調や気持ちが落ち着いているときには、自分がやりたい遊びがあっても、友達に順番を譲ったり、友達や教師の失敗を「いいよ」「大丈夫」と言って許したりすることもある。しかし、体調や気持ちによっては、不適切な言動になることがある。

オ これまでの自立活動の指導では、鬼ごっこや人生ゲームなどの活動を通して、ルールを守って友達や教師と仲良く活動することに取り組んできた。体調や気持ちが安定しているときは、ルールを確認しながら、教師の声掛けを聞いたり、友達と一緒にいたりすることで、意欲的に取り組む様子が見られた。

(2) 指導について

ア 児童Aは、ふわふわ言葉（自分が言われて嬉しい言葉）とちくちく言葉（自分が言われて悲しい言葉）を学習し、その学習を生かし、設定した活動の中でふわふわ言葉を使うことができるように指導を展開していきたい。また、活動の前にルールを視覚的に示して確認し、設定した活動に参加できるようにしていきたい。加えて、体調カードと気持ちカードを使って、イライラしたらどうするか、教師と一緒に確認できるようにしたい。

イ 児童Bは、体調カードと気持ちカードを使って、自分の体調や気持ちを考えたり、教師に伝えたりすることができるようにしたい。活動中も体調や気持ちを確認できるように、作戦タイムを設定する。また、体調や気持ちが落ち着かないときには、その時間の活動量を調整し、活動に参加できるようにしたい。加えて、設定した活動の中でふわふわ言葉を使うことができるようにしていきたい。

ウ ふわふわ言葉とちくちく言葉のロールプレイや言葉を分ける活動を通して、ふわふわ言葉とちくちく言葉を理解できるようにしたい。また、同じ言葉でも、言い方によって伝わり方が変化することや、とっさにちくちく言葉を使ってしまったときはどうしたらよいかについても学習し、状況に応じた言葉遣いができるようにしていきたい。なお、提示するふわふわ言葉とちくちく言葉は、普段の生活の中で児童が使うことがある言葉も盛り込むことで、児童が自分のこととして考えられるようにしたい。各授業の後半には、ルールのある活動（第1時はトンじゃんけん、第2時はお手玉リレー、第3・4時はモルック）を設定し、応援の場面で児童がふわふわ言葉を使うことに慣れていけるようにしたい。また、活動前に作戦タイムを設定し、児童が活動の中で使うふわふわ言葉を自分で決めることができるようにしたい。2名は自立活動の指導目標は異なる部分もあるが、一緒に活動することで、互いを意識して意欲的に取り組むことができると考える。授業の終わりに振り返りや感想発表を行い、自分や友達の良い点に気付くことができるようにし、児童の自己理解が深まるようにしていきたい。

(3) 研究との関わり

本研究では、病弱教育における教員の専門性についての調査を基に、「自立活動指導資料（試案）」（以下、「試案」という）を作成した。

本授業で活用する試案の内容は、次のとおりである。（（ ）は自立活動指導資料の参照ページ）

- 第1章 病弱教育の基本的理解
 - (5) ①病弱の状態の把握 (pp. 3-5)
 - (6) 主な疾患と教育的な配慮 (pp. 10-20)
 - (10) 関係機関との連携 (p. 26-28)
- 第2章 自立活動の指導～自立と社会参加を目指して～
 - (1) 指導の基本「自立活動 27 項目の説明と病弱である児童生徒の状態と区分・項目の関連例①②」(pp. 32-35)
 - (2) 病弱である児童生徒の自立活動 (pp. 37-48)
 - (3) 自立活動の指導内容と留意点 (pp. 49-69)
- 第3章 自立活動と各教科等との関連 (p. 70-78)

まず、試案の第1章(5)①病弱の状態の把握(pp. 3-5)、第2章(1)指導の基本「自立活動 27 項目の説明と病弱である児童生徒の状態と区分・項目の関連例①②」(pp. 32-35)を参考に実態把握を行う。児童Aは精神及び行動の障がいを持っていることを踏まえ、試案巻末の様式2「C o o - M a M e」も参考に実態把握を行う。また、試案巻末の様式1-①②「自立活動目標設定シート」を用いて実態把握し、病弱の状況の把握(pp. 3-5)の中の情緒の安定、社会性の発達、病気の理解について、課題を抽出して、指導目標と指導内容を検討する。検討する際は、学級担任・副担任、児童の授業を担当している教諭及び講師、学部主事、総括教務主任、前担任、特別支援教育コーディネーターを交えた検討会を開く。そして、児童の実態や家庭生活、医療や福祉との連携など様々な視点から意見を出し合い、現時点で指導すべき課題を抽出し、指導目標を設定する。次に、実践場面を想定し、指導内容及び手立てを検討する。本授業では、ふわふわ言葉やちくちく言葉を学び、活動の中でふわふわ言葉を使うことで、児童の他者との関わり基礎になる力や状況に応じたコミュニケーションの力を高めたい。また、体調カードと気持ちカードを用いることで、児童が自分の体調や気持ちに意識を向け、教師に伝えられる力を高めたい。

試案の活用を通して、病弱教育における専門的な視点を踏まえた授業を行うことで、教員の専門性と指導の充実につながるものと考えている。

5 児童の実態と本単元の評価基準

<児童A>

区分(項目)	実態 (自立活動指導資料の関連ページ)	評価基準
【2 心理的な安定(1)】	<ul style="list-style-type: none"> ・注意集中の持続が難しい。 ・負けず嫌いである。 <p>(pp. 54-55)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した活動の中で、ふわふわ言葉を2回以上使うことができる。 【3人(1)】 【6コ(1)(2)(5)】 ・設定した活動に、ルールを守って参加することができる。 【2心(1)】 【3人(4)】
【3 人間関係の形成(1)】	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と仲良くしたいと思っている。 ・気持ちに余裕があるときは、友達や教師を手伝ったり、優しい言葉をかけたりすることができる。 ・思い通りにならないときに暴言を吐くことがある。 <p>(p. 57)</p>	
【3 人間関係の形成(4)】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の都合でルールを変えようとすることがある。 <p>(p. 59)</p>	
【6 コミュニケーション(1)】	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙が少ない。 <p>(p. 66)</p>	
【6 コミュニケーション(2)】	<ul style="list-style-type: none"> ・不適切な言動になることがある。 <p>(p. 67)</p>	
【6 コミュニケーション(5)】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちをうまく表現できない。 <p>(p. 69)</p>	

<児童B>

区分(項目)	実態 (指導資料の関連ページ)	評価基準
【1 健康の保持(1)】	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した睡眠をとることが難しい。 ・疲れやすい。 <p>(p. 50)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した活動の中で、ふわふわ言葉を2回以上使うことができる。 【3人(1)】 【6コ(1)(2)(5)】 ・体調カードと気持ちカードから自分の体調や気持ちを伝えることができる。 【1健(1)(2)】 【2心(1)】 【6コ(1)】
【1 健康の保持(2)】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体調や気持ちに気付きにくい。 ・体調に応じて休憩できないことがある。 <p>(p. 51)</p>	
【2 心理的な安定(1)】	<ul style="list-style-type: none"> ・体調不良のとき、感情のコントロールが難しい。 ・思い通りにならないとき、感情のコントロールが難しい。 ・注意集中の持続が難しい。 ・集団での活動や初めての活動が苦手である。 <p>(pp. 54-55)</p>	
【3 人間関係の形成(1)】	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や友達と一緒に遊ぶことを好む。 ・相手が嫌がっていても気付かず続けることがある。 <p>(p. 57)</p>	
【6 コミュニケーション(1)】	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙が少ない。 <p>(p. 66)</p>	
【6 コミュニケーション(2)】	<ul style="list-style-type: none"> ・不適切な言動になることがある。 <p>(p. 67)</p>	
【6 コミュニケーション(5)】	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったときに人に助けを求めることができる。 ・体調が悪いことを伝えることが難しいことがある。 <p>(p. 69)</p>	

6 単元指導計画（全4時間）

	日時	学習内容	個別の目標	
			児童A	児童B
第1時	9月12日（火） 4校時	<ul style="list-style-type: none"> ・ふわふわ言葉とちくちく言葉の意味を確認する。 ・ふわふわ言葉とちくちく言葉に分ける。 ・ふわふわ言葉をつかってトンじゃんけんをする。 ・体調や気持ちを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した活動の中で、ふわふわ言葉を2回以上使うことができる。 【3人（1）】 【6コ（1）（2）（5）】 ・設定した活動に、ルールを守って参加することができる。 【2心（1）】【3人（4）】 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した活動の中で、ふわふわ言葉を2回以上使うことができる。 【3人（1）】 【6コ（1）（2）（5）】 ・体調カードと気持ちカードから自分の体調や気持ちを伝えることができる。 【1健（1）（2）】 【2心（1）】【6コ（1）】
第2時	9月14日（木） 4校時	<ul style="list-style-type: none"> ・言い方の違う2パターンのふわふわ言葉の提示を見聞きする。 ・2パターンの感じ方の違いを考える。 ・言い方に気を付けて、ふわふわ言葉を使う。 ・ふわふわ言葉と使ってお手玉リレーをする。 ・体調や気持ちを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した活動の中で、ふわふわ言葉を2回以上使うことができる。 【3人（1）】 【6コ（1）（2）（5）】 ・設定した活動に、ルールを守って参加することができる。 【2心（1）】【3人（4）】 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した活動の中で、ふわふわ言葉を2回以上使うことができる。 【3人（1）】 【6コ（1）（2）（5）】 ・体調カードと気持ちカードから自分の体調や気持ちを伝えることができる。 【1健（1）（2）】 【2心（1）】【6コ（1）】
第3時	9月14日（木） 5校時	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイを見て、とっさにちくちく言葉を言ってしまったらどうしたらよいか考える。 ・ちくちく言葉を言われ、その後謝られた人はどうしたらよいか考える。 ・ふわふわ言葉をつかってモルックをする。 ・体調や気持ちを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した活動の中で、ふわふわ言葉を2回以上使うことができる。 【3人（1）】 【6コ（1）（2）（5）】 ・設定した活動に、ルールを守って参加することができる。 【2心（1）】【3人（4）】 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した活動の中で、ふわふわ言葉を2回以上使うことができる。 【3人（1）】 【6コ（1）（2）（5）】 ・体調カードと気持ちカードから自分の体調や気持ちを伝えることができる。 【1健（1）（2）】 【2心（1）】【6コ（1）】
第4時	9月15日（金） 5校時	<ul style="list-style-type: none"> ・ふわふわ言葉復習クイズに答える。 ・ふわふわ言葉を使ってモルックをする。 ・体調や気持ちを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した活動の中で、ふわふわ言葉を2回以上使うことができる。 【3人（1）】 【6コ（1）（2）（5）】 ・設定した活動に、ルールを守って参加することができる。 【2心（1）】【3人（4）】 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した活動の中で、ふわふわ言葉を2回以上使うことができる。 【3人（1）】 【6コ（1）（2）（5）】 ・体調カードと気持ちカードから自分の体調や気持ちを伝えることができる。 【1健（1）（2）】 【2心（1）】【6コ（1）】

7 展開

(1) 9月12日(火) 4校時(第1時/全4時間)

学習課題:「ふわふわ言葉とちくちく言葉を知ろう」

「ふわふわ言葉を使ってトンじゃんけんをやってみよう」

試案 p. 〇

試案は現在の自立活動指導資料を指す。

時間	学習活動	・指導上の留意点 ☆支援 ◇評価	
		児童A	児童B
導入 5分	1 あいさつをする 2 単元の目標と予定を知る 3 本時のめあてを確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ふわふわ言葉を使おう。</div> ・体調と気持ちを伝える	・T1は注目を促してから説明する。 ・児童が見通しをもてるように、単元の目標と4時間の予定表をホワイトボードに提示して説明する。また、友達や教師と仲良く遊んだり勉強したりするために、ふわふわ言葉の学習をすることを伝える。 ・本時のめあてをホワイトボードに掲示し、指をさして確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">試案 p. 62</div>
展開 35分	4 ふわふわ言葉とちくちく言葉を知ろう(15分) (1) ふわふわ言葉・ちくちく言葉の意味を確認する (2) ふわふわ言葉とちくちく言葉に分ける ① ふわふわ言葉・ちくちく言葉のロールプレイの映像を見る ② ロールプレイに出てきた言葉が、ふわふわ言葉かちくちく言葉か考え、札を上げて答える(理由についても考える) ・プレイルームに移動する(5分)	・ふわふわ言葉・ちくちく言葉、それぞれの意味を確認できるように、T2がイラストを用いて説明する。 ☆児童がふわふわ言葉とちくちく言葉のイメージをもてるように、ふわふわ言葉とちくちく言葉を使ったロールプレイを映像で視聴できるようにする。 ・児童が自分のこととして考えられるように、ロールプレイで使用するふわふわ言葉とちくちく言葉は、児童が生活の中で使うことがある言葉を盛り込むようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">試案 p. 57</div>
	5 ふわふわ言葉を使ってトンじゃんけんをやってみよう(15分) (1) ルールを確認する	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【ふわふわ言葉】 ナイス、ドンマイ、がんばれ、ごめんね、だいじょうぶ</p> <p>【ちくちく言葉】 おそい、よわい、なにやってるの</p> </div> ☆児童が体調や気持ちに応じて休憩をとる時に、水分を摂ることができるように、プレイルームに移動する際は、水筒を持つよう声をかける。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">試案 p. 74</div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【ルール】</p> <p>① ふわふわ言葉を使って応援する。</p> <p>② 自分のペアがじゃんけんで負けて線から下りたらスタートする。</p> <p>③ フラフープの中で待つ。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">試案 p. 54</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">試案 p. 66</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">試案 p. 74</div>	

時間	学習活動	・指導上の留意点 ☆支援 ◇評価	
		児童A	児童B
	(2) ペアを決める	<p>・児童が力をコントロールして活動できるように、「ドン」ではなく「トン」と優しく互いの手を合わせて行うようT1が説明し、T2とT3がやって見せる。</p> <p>☆ゲーム中もルールを確認できるように、T1はホワイトボードにルールを提示する。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 59</p> <p>◇設定した活動に、ルールを守って参加することができる。 【2心(1)】【3人(4)】</p>	<p>☆ルールを正しく理解できるように、全体説明の後にT2又はT3が個別に補足説明をする。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 59</p>
		<p>・ゲーム中、T2、T3が個々への支援をするため、教師と児童がペアになるように、教師同士、児童同士に分かれ、チーム分けをする。</p> <p>☆自分の思い通りのペアにならず不穏になった際には、T2又はT3は、児童の残念だった気持ちを受け止め、児童の手本となる行動を示す。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 18</p>	
	(3) 作戦タイム ・ペアで作戦を立てる	<p>・児童がそれぞれ使いたいふわふわ言葉を決められるように、T1は作戦タイムを設定する。</p> <p>☆児童自身が使いたいふわふわ言葉を決められるように、T2又はT3は何の言葉を使いたいか尋ねたり、相談したりする。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 57</p>	<p>☆児童が今の体調や気持ちを考えてT2又はT3に伝えられるように、T2とT3は体調カードと気持ちカードを携帯し、作戦タイムの際に確認するようにする。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 66</p> <p>◇体調カードと気持ちカードから自分の体調と気持ちを伝えることができる。 【1健(1)(2)】 【2心(1)】【6コ(1)】</p> <p>☆児童自身が使いたい言葉を決められるように、T2又はT3は何の言葉を使いたいか選択肢を絞って示す。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 57</p>
	(4) トンじゃんけんをする	<p>・児童がふわふわ言葉を使うことができるように、ゲーム中はT2とT3もふわふわ言葉を使って手本を示すようにする。</p> <p>☆負けても、児童が気持ちを切り替えることができるように、T2、T3は児童の気持ちを受け止め、落ち着いた態度で接するようにする。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 18</p>	

時間	学習活動	・指導上の留意点	☆支援	◇評価
		児童A	児童B	
		☆児童が自信をもてるように児童がふわふわ言葉を1回でも使えたら、T2又はT3は、言われて嬉しかったことを使える。 試案 p. 57 ◇設定した活動の中で、ふわふわ言葉を2回以上使うことができる。 【3人(1)】【6コ(1)(2)(5)】 ☆児童が自信をもてるようにルールを守れているところを捉えて称賛する。 試案 p. 55 ◇設定した活動に、ルールを守って参加することができる。 【2心(1)】【3人(4)】	☆体調や気持ちの変化を捉えられるように、児童の顔色や表情、動きを観察しながら一緒に活動する。不調が疑われるときにはその都度体調や気持ちを確認する。 試案 p. 50 ◇体調カードと気持ちカードから自分の体調と気持ちを伝えることができる。 【1健(1)(2)】【2心(1)】【6コ(1)】 ☆児童が自信をもってふわふわ言葉を使えるように、トンじゃんけんをスタートする前に、何の言葉を使うか再度確認する。また、使えた時には、T2又はT3は言われて嬉しかったことを使える。 試案 p. 55 ◇設定した活動の中で、ふわふわ言葉を2回以上使うことができる。 【3人(1)】【6コ(1)(2)(5)】	
終末5分	6 振り返りをする ・自己評価したことや感想を発表する 7 次の時間の予定を確認する 8 あいさつをする	・文字を書くことの苦手さに配慮し、振り返りでは、◎・○・△を選択して自己評価できるような振り返りシートを準備する。感想を記入する欄については、児童の疲労具合に応じて教師が聞き取って記入することとする。 ・児童が自己評価や感想を発表したり、友達の良かったところがあれば発表したりするよう促す。 試案 p. 55		
		・児童が次の時間の見通しをもてるように、T1は導入で使用した予定表を提示して確認する。		

【振り返りシートの項目】※毎時間同じものを使用する。

ふわふわことばの名人になろう！ ふりかえりシート		
1	ふわふわ言葉を使うことができましたか？	◎・○・△
2	ふわふわ言葉を使ってみてどう思いましたか？	(感想を記入する)
3	ルールを守ることができましたか？	◎・○・△
4	体調カードと気持ちカードの中から自分の体調や気持ちを伝えることができましたか？	◎・○・△

◎：できた ○：まあまあできた △：できなかった

(2) 9月14日(木) 4校時(第2時/全4時間)

学習課題:「これって本当にふわふわ言葉かな?」

「ふわふわ言葉を使ってお手玉リレーをやってみよう」

時間	学習活動	・指導上の留意点 ☆支援 ◇評価	
		児童A	児童B
導入 5分	1 あいさつをする 2 単元の目標と予定を知る 3 本時のめあてを確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">ふわふわ言葉を使おう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・体調と気持ちを伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・T1は注目を促してから説明する。 ・児童が見通しをもてるように、単元の目標と4時間の予定表をホワイトボードに提示して説明する。また、友達や教師と仲良く遊んだり勉強したりするために、ふわふわ言葉の学習をすることを伝える。 ・本時のめあてをホワイトボードに掲示し、指をさして確認する。 <p>☆児童が自分の体調や気持ちについて考え、教師に伝えることができるように、T1は体調カードと気持ちカードを示して児童の体調や気持ちを尋ねるようにする。体調や気持ちを整えるために、必要に応じて水分を摂るよう促す。</p>	<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">試案 p. 62</div>
展開 35分	4 これって本当にふわふわ言葉かな?(10分) (1) 言い方の違う2パターンのふわふわ言葉の提示を見聞きする (2) 2パターンの感じ方の違いを考える (3) 言い方に気を付けて、ふわふわ言葉を言ってみる <ul style="list-style-type: none"> ・プレイルームに移動する(5分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ言葉でも、言い方によって伝わり方が変化することを知らることができるように、T2は、「ドンマイ」はふわふわ言葉であることを確認した上で、励ます気持ちで明るく言う言い方と、失敗を責めるように怒って言う言い方の2パターンを2種類の表情カードと共に示す。「ごめんね」についても同様に示す。 ・言い方が違うとどのように感じるか考えられるように、T2は考える時間を設ける。 <p>☆ふわふわ言葉を言うときに気を付けるポイント(言い方)を視覚的に提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言い方に気を付けてふわふわ言葉が言えるように、児童がそれぞれ教師とペアになってふわふわ言葉を練習する時間を設定する。 <p>☆児童が体調や気持ちに応じて休憩をとる時に、水分を摂ることができるように、プレイルームに移動する際は、水筒を持つよう声をかける。</p>	<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">試案 p. 74</div>
		5 ふわふわ言葉を使って「お手玉リレー」をやってみよう(20分) (1) ルールを確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> 【ルール】 ① ふわふわ言葉を使って応援する。 ② お手玉を落としたり、頭に乗せる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がルールを理解できるように、T2とT3が実際にやってみせる。 <p>☆ゲーム中もルールを確認できるように、T1はホワイトボードにルールを提示する。</p>
			<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">試案 p. 59</div>

時間	学習活動	・指導上の留意点 ☆支援 ◇評価	
		児童A	児童B
	(2) ペアを決める	<p>・ゲーム中、T2、T3が個々への支援をするため、教師と児童がペアになるように、教師同士、児童同士に分かれチーム分けをする。</p> <p>☆自分の思い通りのペアにならず不穏になった際には、T2又はT3は、児童の残念だった気持ちを受け止め、児童の手本となる行動を示す。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 18</p>	
	(3) 作戦タイムをする ・ペアで作戦を立てる	<p>・児童がそれぞれ使いたいふわふわ言葉を決められるように、T1は作戦タイムを設定する。</p> <p>☆児童が自分で決めたふわふわ言葉を使えるように、T2又はT3は、何の言葉を使うか尋ねたり、児童と一緒に練習したりする。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 57</p>	<p>☆児童が今の体調や気持ちを考えてT2又はT3に伝えられるように、T2とT3は体調カードと気持ちカードを携帯し、作戦タイムの際に確認するようにする。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 66</p>
			<p>◇体調カードと気持ちカードから自分の体調と気持ちを選ぶことができる。</p> <p>【1健(1)(2)】【2心(1)】 【6コ(1)】</p> <p>☆児童がふわふわ言葉を使えるように、決めた言葉を一緒に練習するようにする。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 57</p>
	(4) お手玉リレーをする	<p>・児童がふわふわ言葉を使うことができるように、ゲーム中はT2とT3もふわふわ言葉を使って手本を示すようにする。</p> <p>☆負けても、児童が気持ちを切り替えることができるように、T2、T3は児童の気持ちを受け止め、児童の手本となる行動を示す。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 18</p>	
	<p>☆児童が自信をもてるように児童がふわふわ言葉を1回でも使えたら、T2又はT3は、言われて嬉しかったことを伝える。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 57</p>	<p>☆体調や気持ちの変化を捉えられるように、児童の顔色や表情、動きを観察しながら一緒に活動する。不調が疑われるときにはその都度体調や気持ちを確認する。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 50</p>	
	<p>◇設定した活動の中で、ふわふわ言葉を2回以上使うことができる。</p> <p>【3人(1)】【6コ(1)(2)(5)】</p>	<p>◇体調カードと気持ちカードから自分の体調と気持ちを伝えることができる。</p> <p>【1健(1)(2)】【3心(1)】 【6コ(1)】</p>	

時間	学習活動	・指導上の留意点	☆支援	◇評価
		児童A		児童B
		☆児童が自信をもてるようにルールを守れているところを捉えた称賛する。 試案 p. 55 ◇設定した活動に、ルールを守って参加することができる。 【2心(2)】【3人(4)】		☆児童が自信をもってふわふわ言葉を使えるように、お手玉リレーをスタート前に、何の言葉を使うか再度確認する。また使えた時には、T 2 又は T 3 は言われて嬉しかったことを伝える。 試案 p. 57 ◇設定した活動の中で、ふわふわ言葉を2回以上使うことができる。 【3人(1)】【6コ(1)(2)(5)】
終末5分	6 振り返りをする ・自己評価したことや感想を発表する 7 次の時間の予定を確認する 8 あいさつをする	・文字を書くことの苦手さに配慮し、振り返りでは、◎・○・△を選択して自己評価できるような振り返りシートを準備する。感想を記入する欄については、児童の疲労具合に応じて教師が聞き取って記入することとする。 ・児童が自己評価や感想を発表したり、友達の良かったところがあれば発表したりするよう促す。 試案 p. 55		・児童が次の時間の見通しをもてるように、T 1 は導入で使用した予定表を提示して確認する。

(3) 9月14日(木) 5校時(第3時/全4時間)

学習課題:「こんなときどうするか考えよう(思わずちくちく言葉を言ってしまったら…)」

「ふわふわ言葉を使ってモルックをやってみよう」

時間	学習活動	・指導上の留意点 ☆支援 ◇評価	
		児童A	児童B
導入 5分	1 あいさつをする 2 単元の目標と予定を知る 3 本時のめあてを確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ・こんなときどうするか考えよう。 ・ふわふわ言葉を使おう。 </div> ・体調と気持ちを伝える	・T1は注目を促してから説明する。 ・児童が見通しをもてるように、単元の目標と4時間の予定表をホワイトボードに提示して説明する。また、友達や教師と仲良く遊んだり勉強したりするために、ふわふわ言葉の学習をすることを伝える。 ・本時のめあてをホワイトボードに掲示し、指をさして確認する。 ☆児童が自分の体調や気持ちについて考え、教師に伝えることができるように、T1は体調カードと気持ちカードを示して児童の体調や気持ちを尋ねるようにする。体調や気持ちを整えるために必要に応じて水分を摂るよう促す。	<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">試案 p. 62</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%;"> <div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">試案 p. 54</div> <div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">試案 p. 66</div> <div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">試案 p. 74</div> </div>
展開 35分	4 こんなときどうするか考えよう(10分) (1) ロールプレイを見て、とっさにちくちく言葉を言ってしまったらどうしたらよいか考える。 (2) ちくちく言葉を言われ、その後、謝られた人はどうしたらよいか考える。 ・プレイルームに移動する(5分)	・とっさにちくちく言葉を言ってしまったら、どうしたらよいか考えられるように、普段の生活や遊びの中でありそうな場面のロールプレイを映像で視聴できるようにする。 ・T2は、とっさにちくちく言葉を言ってしまったら、どうしたらよいか尋ね、T1、T3は児童と一緒に考える。 ☆どうしたらよいか分からない時には、T2は選択肢を提示し、児童が選択できるようにする。(選択肢:ちくちく言葉を言ってしまったら、(できればその場で)「謝る」/「謝らない」) ・T2は、謝られた人はどうしたらよいか尋ね、T1、T3は児童と一緒に考える。 ☆どうしたらよいか分からない時には、T2は選択肢を提示し、児童が選択できるようにする。(選択肢:(できればその場で)「許す」/「許さない」) ☆児童が体調や気持ちに応じて休憩が必要な時に、水分を摂ることができるように、プレイルームに移動する際は、水筒を持つよう声をかける。	<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">試案 p. 74</div>
	5 ふわふわ言葉を使ってモルックをやってみよう(20分) (1) ルールを確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 【ルール】 ① 協力してスキットルを並べる。 ② ふわふわ言葉を使って応援する。 ③ モルックを取りに行き、次の人に渡す。 </div>	・ルールをゲーム中にも確認できるように、T1はホワイトボードにルールを提示しながら説明する。	

時間	学習活動	・指導上の留意点	☆支援	◇評価	
		児童A	児童B	児童B	
	(2) スキットルを並べる	☆ゲーム中もルールを確認できるように、T1はホワイトボードにルールを提示する。		☆ルールを正しく理解できるように、T2又はT3が全体説明の後に個別に補足説明をする。	
			試案 p. 59	試案 p. 59	
	(3) ペアを決める	・児童が協力してスキットルを並べられるように、スキットルを並べる前に、T1は望ましい行動（スキットルを分担したり、置く場所を教え合ったりして並べる）を示す。			
		・ゲーム中、T2、T3が個々への支援をするため、教師と児童がペアになるように、教師同士、児童同士に分かれチーム分けをする。 ☆自分の思い通りのペアにならず不穏になった際には、T2又はT3は、児童の残念だった気持ちを受け止め、児童の手本となる行動を示す。			試案 p. 18
	(4) 作戦タイム ・ペアで作戦を立てる	・児童がそれぞれ使いたいふわふわ言葉を決められるように、T1は作戦タイムを設定する。			
☆児童が自分で決めたふわふわ言葉を使えるように、T2又はT3が作戦タイムの際に何の言葉を使うか尋ねたり、一緒に練習したりする。		試案 p. 57	☆児童が今の体調や気持ちを考えてT2又はT3に伝えられるように、T2とT3は体調カードと気持ちカードを携帯し、作戦タイムの際に確認するようにする。	試案 p. 66	
(5) モルックをする			◇体調カードと気持ちカードから自分の体調と気持ちを伝えることができる。【1健(1)(2)】【2心(1)】【6コ(1)】		
	・児童が、ふわふわ言葉を使うことができるように、ゲーム中はT2とT3もふわふわ言葉を使い手本を示す。 ☆負けても、児童が気持ちを切り替えることができるように、T2、T3は児童の気持ちを受け止め、児童の手本となる行動を示す。			☆児童がふわふわ言葉を使えるように、作戦タイムの際に練習するようにする。	試案 p. 57
				試案 p. 18	

時間	学習活動	・指導上の留意点		☆支援	◇評価
		児童A		児童B	
		<p>☆児童が自信をもてるように児童がふわふわ言葉を1回でも使えたら、T2又はT3は、言われて嬉しかったことを伝える。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 57</p> <p>◇設定した活動の中で、ふわふわ言葉を2回以上使うことができる。</p> <p>【3人(1)】【6コ(1)(2)(5)】</p> <p>☆児童が自信をもてるようにルールを守れているところを捉えて称賛する。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 55</p> <p>◇設定した活動に、ルールを守って参加することができる。</p> <p>【2心(1)】【3人(4)】</p>		<p>☆体調や気持ちの変化を捉えられるように、児童の顔色や表情、動きを観察しながら一緒に活動する。不調が疑われるときにはその都度体調や気持ちを確認する。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 50</p> <p>◇体調カードと気持ちカードから自分の体調と気持ちを伝えることができる。</p> <p>【1健(1)(2)】【2心(1)】【6コ(1)】</p> <p>☆児童が自信をもってふわふわ言葉を使えるように、何の言葉を使うか再度確認する。また、使えた時には、T2又はT3は言われて嬉しかったことを伝える。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 57</p> <p>◇設定した活動の中で、ふわふわ言葉を2回以上使うことができる。</p> <p>【3人(1)】【6コ(1)(2)(5)】</p>	
終末5分	<p>6 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己評価したことや感想を発表する <p>7 次の時間の予定を確認する</p> <p>8 あいさつをする</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文字を書くことの苦手さに配慮し、振り返りでは、◎・○・△を選択して自己評価できるような振り返りシートを準備する。感想を記入する欄については、児童の疲労具合に応じて教師が聞き取って記入することとする。 児童が自己評価や感想を発表したり、友達の良かったところがあれば発表したりするよう促す。 <p style="text-align: right;">試案 p. 55</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が次の時間の見通しをもてるように、T1は導入で使用した予定表を提示して確認する。 			

(4) 9月15日(金) 5校時(第4時/全4時間)

学習課題:「ふわふわ言葉名人クイズをしよう」

「ふわふわ言葉を使ってモルックをやってみよう」

時間	学習活動	・指導上の留意点 ☆支援 ◇評価	
		児童A	児童B
導入 5分	1 あいさつをする	・T1は注目を促してから説明する。	
	2 単元の目標を知る	・児童が見通しをもてるように、単元の目標と4時間の予定をホワイトボードに提示して説明する。また、友達や先生と仲良く遊んだり勉強したりするために、ふわふわ言葉の学習を学習していることや、この時間が最後であることを確認する。	
展開 30分	3 本時のめあてを確認する ふわふわ言葉の名人になろう。	・本時のめあてをホワイトボードに掲示し、指をさして確認する。	
	・体調と気持ちを伝える	☆児童が自分の体調や気持ちについて考え、教師に伝えることができるように、T1は体調カードと気持ちカードを示して児童の体調や気持ちを尋ねるようにする。体調や気持ちを整えるために必要に応じて水分を摂るよう促す。	
		試案 p. 54	試案 p. 66
		試案 p. 62	試案 p. 74
	4 ふわふわ言葉復習クイズをしよう(5分)	・ふわふわ言葉復習クイズでは、これまで学習してきたことを児童が確認できるように、T2はこれまで学習で使用してきた視覚教材を用いながら、クイズ形式で提示する。	
	【クイズ】 ① これは、ふわふわ言葉?ちくちく言葉? ② ふわふわ言葉を言うときは、何に気をつける? ③ とっさにちくちく言葉を言ってしまったらどうしたらいい? ④ ちくちく言葉を言ってしまった人から謝られたらどうしたらいい?		
	5 ふわふわ言葉を使ってモルックをやってみよう(25分) (1) ルールを確認する	・ルールをゲーム中にも確認できるように、T1はホワイトボードにルールを提示しながら説明する。	
	【ルール】 ① 協力してスキットルを並べる。 ② ふわふわ言葉を使って応援する。 ③ モルックを取りに行き、次の人に渡す。		
		☆ゲーム中もルールを確認できるように、T1はホワイトボードにルールを提示する。	☆ルールを正しく理解できるように、T2又はT3が全体説明の後に個別に補足説明をする。
		試案 p. 59	試案 p. 59
	(2) スキットルを並べる	・児童が協力してスキットルを並べられるように、スキットルを並べる前に、T1は望ましい行動(スキットルを分担したり、置く場所を教え合ったりして並べる)を示す。	

時間	学習活動	・指導上の留意点 ☆支援 ◇評価	
		児童A	児童B
	(3) ペアを決める	<p>・ゲーム中、T2、T3が個々への支援をするため、教師と児童がペアになるように、教師同士、児童同士に分かれチーム分けをする。☆自分の思い通りのペアにならず不穏になった際には、T2又はT3は、児童の残念だった気持ちを受け止め、児童の手本となる行動を示す。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 18</p>	
	(4) 作戦タイム ・チームで作戦を立てる	<p>・児童が、使いたいふわふわ言葉を決められるように、T1は作戦タイムを設定する。</p> <p>☆児童が自分で決めたふわふわ言葉を使えるように、T2又はT3が作戦タイムの際に何の言葉を使うか尋ねたり、一緒に練習したりする。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 57</p>	<p>☆児童が今の体調や気持ちを考えてT2又はT3に伝えられるように、T2とT3は体調カードと気持ちカードを携帯し、作戦タイムの際に確認するようにする。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 66</p>
			<p>◇体調カードと気持ちカードから自分の体調と気持ちを伝えることができる。</p> <p>【1健(1)(2)】【2心(1)】 【6コ(1)】</p> <p>☆児童がふわふわ言葉を使えるように、作戦タイムの際に練習するようにする。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 57</p>
	(5) モルックをする	<p>・児童が、ふわふわ言葉を使うことができるように、ゲーム中はT2とT3もふわふわ言葉を使い手本を示す。</p> <p>☆負けても、児童が気持ちを切り替えることができるように、T2、T3は児童の気持ちを受け止め、児童の手本となる行動を示す。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 18</p>	
		<p>☆児童が自信をもてるように児童がふわふわ言葉を1回でも使えたら、T2又はT3は、言われて嬉しかったことを伝える。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 57</p>	<p>☆体調や気持ちの変化を捉えられるように、児童の顔色や表情、動きを観察しながら一緒に活動する。不調が疑われるときにはその都度体調や気持ちを確認する。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 66</p>
		<p>◇設定した活動の中で、ふわふわ言葉を2回以上使うことができる。</p> <p>【3人(1)】【6コ(1)(2)(5)】</p>	<p>◇体調カードと気持ちカードから自分の体調と気持ちを伝えることができる。</p> <p>【1健(1)(2)】【2心(1)】 【6コ(1)】</p>

時間	学習活動	・指導上の留意点	☆支援	◇評価
		児童A	児童B	
		☆児童が自信をもてるようにルールを守れているところを捉えて称賛する。 試案 p. 55 ◇設定した活動に、ルールを守って参加することができる。 【2心(1)】【3人(4)】	☆児童が自信をもってふわふわ言葉を使えるように、スタート前に、何の言葉を使うか再度確認する。また、使えた時には、T2又はT3は言われて嬉しかったことを伝える。 試案 p. 57 ◇設定した活動の中で、ふわふわ言葉を2回以上使うことができる。 【3人(1)】【6コ(1)(2)(5)】	
終末10分	6 振り返りをする ・自己評価したことや感想を発表する ・名人認定証を受け取る 7 あいさつをする	・文字を書くことの苦手さに配慮し、振り返りでは、◎・○・△を選択して自己評価できるような振り返りシートを準備する。感想を記入する欄については、児童の疲労具合に応じて教師が聞き取って記入することとする。 ・児童が自己評価や感想を発表したり、友達の良かったところがあれば発表したりするよう促す。 ・児童が4時間の学習を振り返り、自分自身の頑張りやよさに気付くことができるように、T1は児童の頑張りやよさに触れながら名人認定証を渡す。また、これからもみんなと仲良く過ごすことができるように、ふわふわ言葉を生活の中で使い続けられるとよいことを伝える。 試案 p. 55		

【振り返りシートの項目】※毎時間同じものを使用する。

ふわふわことばの名人になろう！ ふりかえりシート		
1	ふわふわ言葉を使うことができましたか？	◎・○・△
2	ふわふわ言葉を使ってみてどう思いましたか？	(感想を記入する)
3	ルールを守ることができましたか？	◎・○・△
4	体調カードと気持ちカードの中から自分の体調や気持ちを伝えることができましたか？	◎・○・△

◎：できた ○：まあまあできた △：できなかった

【資料3】 小学部「自立活動目標設定シート」（児童A）

学部学年	(小)・中・高 年	氏名	A
教育課程 (小・中)	通常学級 (準ずる教育A) 重複障害学級		
教育課程 (高)	通常学級・重複学級		

手順1 実態把握

① 興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等についての情報交換

興味・関心 苦手なこと	好きなこと 得意なこと	・教師や友達と遊ぶこと (おにごっこ、サッカー、ドッジボール) ・運動・好きな絵本や図鑑を読むこと		
	苦手なこと	・自分の考えや気持ちを相手に伝えること・文字を書くこと ・注意集中の持続が苦手 (気が散りやすく、立ち歩くことがある。 見通しを持った行動)		
学習や生活の中で 見られるよさと課題	よさ	・友達と仲良くしたいと思っている。・負けず嫌い ・気持ちに余裕がある時は、友達や先生を手伝ったり、優しい言葉をかけたりすることができる。		
	課題	・語彙が少ない。・不適切な言動になることがある。・自分の気持ちをうまく表現できない。・負けを受け入れられないことがある。		
	Co-MaMe (必要に応じて記入)	A 1~F 5	段階	支援・配慮
		A2 感情のコントロール	試行期	不適切な行動になる前に相談する。
		B3 社会のルールを理解	試行期	ルールを分かりやすく提示する。

② 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階

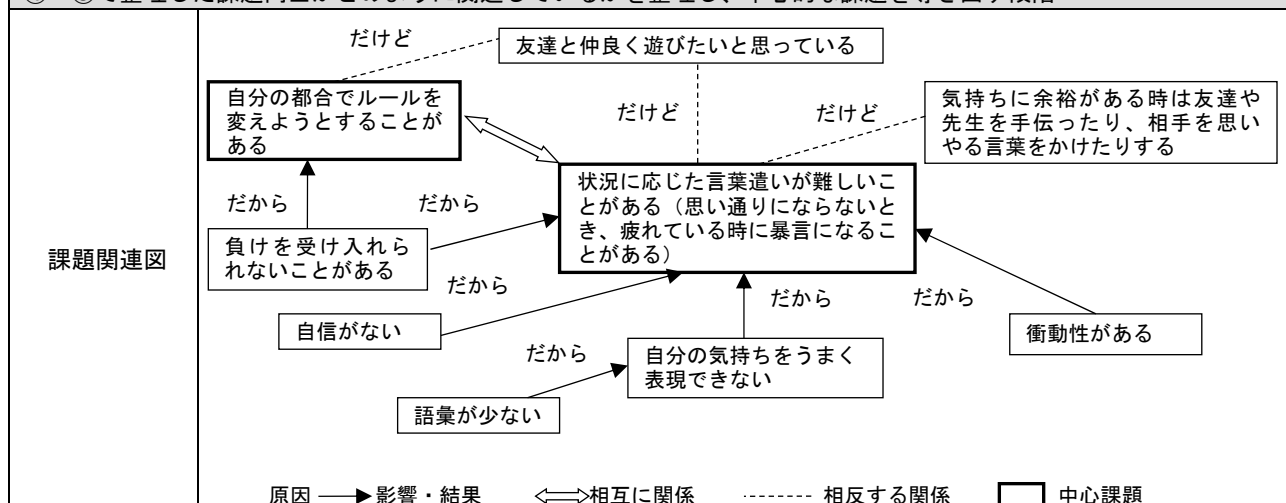
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(5) 運動が好き	(1) 注意集中の持続が苦手	(1) 友達と仲良くしたいと思っている。	(4) 文字を書くことが苦手	(1) 気が散りやすく立ち歩くことがある。	(1) 語彙が少ない。
(5) 運動が得意	(1) 負けず嫌い	(1) 気持ちに余裕がある時は、友達や先生を手伝ったり、相手を思いやる言葉をかけたりする。			(2) 不適切な言動になることがある。
	(1) 負けを受け入れられないことがある。	(1) 思い通りにならない時に暴言になることがある。			(5) 自分の気持ちをうまく表現できない。
		(4) 自分の都合でルールを変えようとすることがある。			

手順2 課題の抽出と関連の整理

③ ①をもとに②で整理した情報から課題を抽出する段階

- ・不適切な言動になることがある。(思い通りにならないときに暴言になることがある。自分の都合でルールを変えようとすることがある。)
- ・語彙が少ない。

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階



④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

- 【指導すべき課題】 (つけてほしい力、これから獲得すべきこと、○年後に向けて今つけたい力)
- ・状況に応じた言葉遣いができるようになる。(状況に応じた言葉遣いができるようになれば、友達と仲良く遊ぶことができるようになっていくのではないかと考える。)
 - ・ルールを守って遊ぶことができるようになる。(ルールを守って遊ぶことができるようになれば、友達と仲良く遊ぶことができるようになっていくのではないかと考える。)

手順3 指導目標の設定					
課題同士の関係を整理する中で今指導する目標として					
⑤ ④に基づき設定した指導目標を記す段階					
【長期目標】					
・自分の気持ちや体調に気付き、状況に応じた行動ができる。					
・状況に応じた言葉遣いができる。					
【短期目標】					
・設定した活動にルールを守って参加することができる。					
・設定した活動の中で、ふわふわ言葉を使うことができる。					
手順4 具体的な指導内容の設定					
指導目標を達成するために必要な項目の設定					
⑥ ⑤を達成するために必要な項目の設定					
⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。	(1) 情緒の安定に関する事。	(1) 他者とのかわりの基礎に関する事。	(1) 保有する感覚の活用に関する事。	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。
(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。	(2) 理解と変化への対応に関する事。	(2) 他者との意図や感情の理解に関する事。	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。	(2) 言語の受容と表出に関する事。
(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事。	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事。	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。	(3) 言語の形成と活用に関する事。
(4) 障害の特性と生活環境の調整に関する事。		(4) 集団への参加の基礎に関する事。	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。	(4) 身体の移動動作に関する事。	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。
(5) 健康状態の維持・改善に関する事。			(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。
設定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定					
⑧ 具体的な項目を関連付ける段階					
<指導内容> ・設定した活動に、ルールを守って参加することができる。(そのために、【2心(1)】【3人(4)】を関連付けて設定する。)	<指導内容> ・設定した活動の中で、ふわふわ言葉を使うことができる。(そのために、【3人(1)】【6コ(1)(2)(5)】を関連付けて設定する。)	<指導内容>	<指導内容>	<指導内容>	<指導内容>
<指導の手立て> ・ルールを視覚的に提示して確認する。 ・気持ち体調カードを使って、イライラしたらどうするか、活動の前に相談する。	<指導の手立て> ・ふわふわ言葉をロールプレイで示したり、視覚的に提示したりして、確認できるようにする。 ・場面を設定して、児童が選択したふわふわ言葉を使えるようにする。 ・ふわふわ言葉を2回以上使うことができたなら称賛する。	<指導の手立て>	<指導の手立て>	<指導の手立て>	<指導の手立て>
<指導の場面> ・自立活動の時間	<指導の場面> ・自立活動の時間	<指導の場面>	<指導の場面>	<指導の場面>	<指導の場面>
手順5 評価					
<評価基準> ・設定した活動に、ルールを守って参加することができる。	<評価基準> ・設定した活動の中で、ふわふわ言葉を2回以上使うことができる。	<評価基準>	<評価基準>	<評価基準>	<評価基準>

【資料4】 小学部「自立活動目標設定シート」(児童B)

学部学年	(小)・中・高 年	氏名	B
教育課程 (小・中)	通常学級 (準ずる教育A) (重複障害学級)		
教育課程 (高)	通常学級・重複学級		

手順1 実態把握

① 興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等についての情報交換

興味・関心 苦手なこと	好きなこと 得意なこと	・教師や友達と一緒に遊ぶこと・運動(野球、ドッジボール、おにごっこ) ・虫や植物・工作(自分で考えてものをつくること)・絵を描くこと		
	苦手なこと	・初めてのことや見通しがもちにくいことへの参加・集団での活動・書くこと		
学習や生活の中で 見られるよさと課題	よさ	・興味のあることへの集中力がある。・見通しがもてると頑張ることができることがある。・体調が落ち着いている時は素直な気持ちを表すことができる。周りの人に優しくすることができる。・困った時に人に助けを求めることができる。・負けず嫌い。		
	課題	・病気のため安定した睡眠をとることが困難。・疲れやすい。・体調不良や思い通りにならないときに感情のコントロールが難しい。・自分の体調に気付けないことがあり、体調に応じて休憩できないことがある。・相手が嫌がっているにも気付かず、相手が嫌な思いをすることを言うことがある。・語彙が少ない。		
	C o - M a M e (必要に応じて記入)	A 1 ~ F 5	段階	支援・配慮
		A 1 不安・悩み	試行期	相談しながら行えるようにする。

② 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階

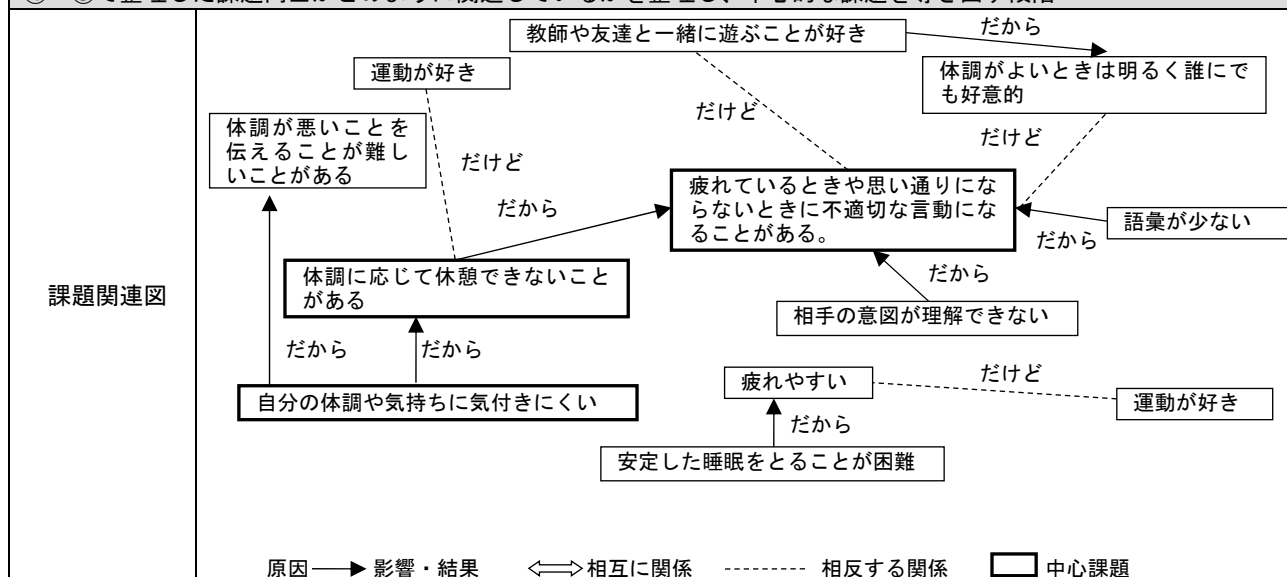
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 安定した睡眠をとることが困難	(1) 体調不良のとき、感情のコントロールが難しい。	(1) 教師や友達と一緒に遊ぶことが好き	(5) 見通しがもてると頑張ることができることがある。	(1) 運動が好き	(1) 語彙が少ない。
(1) 疲れやすい。	(1) 思い通りにならないとき、感情のコントロールが難しい。	(1) 相手が嫌がっているにも気付かないことがある。			(2) 不適切な言動になることがある。
(2) 自分の体調や気持ちに気付にくい。	(1) 初めての活動や集団での活動が苦手				(5) 相手が嫌な思いをすることを言うことがある。
(2) 体調に応じて休憩できないことがある。					

手順2 課題の抽出と関連の整理

③ ①をもとに②で整理した情報から課題を抽出する段階

- ・体調に応じて休憩できないことがある。(健)
- ・相手が嫌がっていることに気付かず、嫌なことを言うことがある。(人)

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階



④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

- 【指導すべき課題】(つけてほしい力、これから獲得すべきこと、○年後に向けて今つきたい力)
- ・自分の体調や気持ちが分かり、休憩を取ることができる。(休憩を取ることができるようになれば、友達や先生と安定した状態で関わることができるようになるのではないかと考える。)
 - ・状況に応じた言葉遣いができる。(状況に応じた言葉遣いができるようになれば、相手が嫌がることを言うことが少なくなり、友達と仲良く遊ぶことが増えていくのではないかと考える。)

手順3 指導目標の設定					
課題同士の関係を整理する中で今指導する目標として					
⑤ ④に基づき設定した指導目標を記す段階					
【長期目標】					
・自分の言葉で、自分の体調や気持ちを伝え、体調や気持ちの変化に応じた参加方法で活動に参加することができる。					
・相手や状況に応じた言葉遣いができるようになる。					
【短期目標】					
・体調カードと気持ちカードの中から、自分の体調や気持ちを伝えることができる。					
・設定した活動の中で、ふわふわ言葉を使うことができる。					
手順4 具体的な指導内容の設定					
指導目標を達成するために必要な項目の設定					
⑥ ⑤を達成するために必要な項目の設定					
⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。	(1) 情緒の安定に関する事。	(1) 他者とのかわりの基礎に関する事。	(1) 保有する感覚の活用に関する事。	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。
(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。	(2) 理解と変化への対応に関する事。	(2) 他者との意図や感情の理解に関する事。	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。	(2) 言語の受容と表出に関する事。
(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事。	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事。	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。	(3) 言語の形成と活用に関する事。
(4) 障害の特性と生活環境の調整に関する事。		(4) 集団への参加の基礎に関する事。	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。	(4) 身体の移動動作に関する事。	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。
(5) 健康状態の維持・改善に関する事。			(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。
設定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定					
⑧ 具体的な項目を関連付ける段階					
<指導内容> ・体調と気持ちカードの中から、自分の体調と気持ちを教師に伝えることができる。(そのために、【健康の保持(1)(2)】【心理的な安定(1)】【コミュニケーション(1)】を関連付けて設定)	<指導内容> ・設定した活動の中で、ふわふわ言葉を使うことができる。(そのために【人間関係の形成(1)】【コミュニケーション(1)(2)(5)】を関連づけて設定)	<指導内容>	<指導内容>	<指導内容>	<指導内容>
<指導の手立て> ・体調カードと気持ちカードを携帯し、常に示せるように準備しておく。	<指導の手立て> ・ふわふわ言葉をロールプレイで示したり、視覚的に提示したりして、確認できるようにする。 ・場面を設定して、児童が選択したふわふわ言葉を使えるようにする。 ・ふわふわ言葉を2回以上使うことができたら称賛する。	<指導の手立て>	<指導の手立て>	<指導の手立て>	<指導の手立て>
<指導の場面> ・自立活動の時間 ・その他の教科等	<指導の場面> ・自立活動の時間	<指導の場面>	<指導の場面>	<指導の場面>	<指導の場面>
手順5 評価					
<評価基準> 体調カードと気持ちカードの中から、自分の体調と気持ちを教師に伝えることができる。	<評価基準> 設定した活動の中で、ふわふわ言葉を2回以上使うことができる。	<評価基準>	<評価基準>	<評価基準>	<評価基準>

小学部第4学年自立活動学習指導案

日 時：令和5年9月19日（火）4校時
 令和5年9月20日（水）3校時
 令和5年9月21日（木）4校時
 令和5年9月21日（木）5校時
 対 象：岩手県立盛岡青松支援学校
 小学部1名
 場 所：自立活動室
 プレイルーム
 指導者：T1
 T2

1 単元名「けんこうについて考えよう ～めざせ！4つのミッションクリア～」

2 内容のまとめ

- 自立活動 【1健康の保持】 (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。
 (2) 病気の状態の理解と生活管理に関すること。
 (5) 健康状態の維持・改善に関すること。
 【5身体の動き】 (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。

3 単元の指導目標

指導目標	【区分（項目）】
(1) 自分の体重が適正体重よりも重いことを知ることができる。	【1健（2）（5）】
(2) 自分で決めた回数で食べてみようとする。	【1健（1）】
(3) 自分で選んだ運動に取り組むことができる。	【1健（5）】【5身（1）】

4 単元について

(1) 児童について

- ア 対象児童は、知的代替の教育課程に在籍する1名である。小学1年から本校に在籍しており、小学3年まで医療的ケア（血糖測定）を受けていた。血糖値が安定してきており、現在は学校にいる間の血糖測定、補食は行っていない。症候性てんかんを有している。入学から現在まで学校で発作を起こしたことはないものの、けいれんが5分以上続く場合には、救急搬送する必要がある、見守りが必要である。
- イ 動きが緩慢であるが、学習意欲があり、どの学習にもじっくり考えながら取り組むことができる。算数が得意で、三桁までの繰り上がりのある足し算や繰り下がりのある引き算ができる。また、時計の読みとりや物の長さ、重さの計量に関して理解している。言葉でのやりとりが可能で、友達や教師との会話を楽しむ様子が見られるが、都合の悪いことは聞こえないふりをすることがある。
- ウ 高度肥満があるが、主治医からの助言により、身長が伸びているので、減量ではなく体重を維持することを目標として白米の量を制限している。偏食はなく、何でも食べることができるが、あまり嘔まずに飲み込んでしまったり、野菜は残したりする傾向がある。

- エ 毎日体重測定をしており、児童自身が体重の増減を確認しているが、適正体重と比べて20 kg オーバーしていることや、体重が増え過ぎることによる身体への影響については知らない。
- オ ダンスやボールを使った遊びが好きで、身体を動かすことは嫌いではない。主治医からの運動制限はなく、たくさん身体を動かすことを勧められているが、少し動くと呼吸が苦しくなりやすい。足首が弱く、歩行はつま先が床に引っかかるような歩き方をするため、不安定で転びやすい。また、転んだときに手が出ない。やりたいことがあると、目的の物に向かって走り出し、バランスを崩して転倒することがあるため、声掛けや見守りが必要である。
- カ これまでの自立活動の指導では、運動（ダンスや体幹トレーニング）、音読練習、歌、手遊び、コグトレ、ビジョントレーニング、制作活動（折り染、ちぎり絵）に取り組んできた。

(2) 指導について

- ア 体重が増え過ぎることによる身体への影響や、食事や運動について学習することを通して、今後も元気に過ごすために、日常生活の中で食事や運動に気を付けて過ごすことができるきっかけを作ることができるよう授業を展開していきたい。
- イ 自身の肥満の状態を知るために、実際に身体測定を行い、適正体重よりも自分の体重がどのくらい重いか、米袋（10 kg×2）の重さを持ち上げる活動を通して、「重い」という実感をもてるようにしたい。また、体重が増え過ぎることによる身体への影響や、体重が適正体重に近づくとどのようなよさがあるのかについて、児童の生活に即した内容で示すことで知ることができるようにしたい。身体測定の結果は体重管理のアプリを活用することで、データとして記録し、増減を確認できるようにする。
- ウ 児童の食事の実態を踏まえて、「どのようなものを」「どのくらい」「どのように」食べるのがよいのか、児童の生活に即した内容で示すことで知ることができるようにしたい。「どのくらい」については、主食の量について取り上げる。制限されている白米については知っているが、白米以外の主食についても、食パンやロールパン、児童が好んで食べている麺類の量を具体物で提示し、把握できるようにしたい。「どのように」については、よく噛んで食べることのよさについて提示する。また、児童自身が普段どのくらい噛んでいるかを知り、よく噛んで食べる体験ができるよう、事前に食事の様子を動画撮影したものを視聴したり、実際に回数を決めて食べる活動をしたりすることで、「よく噛む」ことを意識できるようにしたい。
- エ 運動については、学校ではある程度の運動量が確保されていることから、家でできる運動について取り上げる。家庭と連携して、児童ができそうな3種類の運動（ダンス、つかまりスクワット、バランスボール）を提示し、実際にやってみたり、具体的に家のどこでできそうか考えたりすることで、家でもやってみようとする意識がもてるようにしたい。また、お手伝いも身体を動かす運動になることとして取り上げ、家での運動のきっかけとなるようにしたい。
- オ 最終時には、身体を動かす時間を設定する。児童が主体的に活動したり、成就感を味わったりできるように、児童が好きな運動を含む五つの運動（ランニング・ウォーキング、ダンス、四つ這い、高這い、つかまりスクワット）から、児童が選択して取り組んだり、目標周回数や目標回数を児童が自分で設定したりするようにしたい。また、ダンスやランニング・ウォーキングは児童が好きな曲を選曲し、教師も一緒に運動することで、児童が楽しみながら身体を動かせるようにしたい。授業の終わりには児童が運動している動画を視聴しながら振り返りを行い、本人の頑張りを称賛したり、次への意欲につなげたりしたい。

(3) 研究との関わり

本研究では、病弱教育における教員の専門性についての調査を基に、「自立活動指導資料（試案）」（以下、「試案」という）を、作成した。

本授業で活用する試案の内容は、次のとおりである。（（ ）は自立活動指導資料の参照ページ）

- 第1章 病弱教育の基本的理解
 - (5) ①病弱の状態の把握 (pp. 3-5)
 - (6) 主な疾患と教育的な配慮 (pp. 10-20)
 - (7) ICT活用について (pp. 21-23)
 - (10) 関係機関との連携 (p. 26-28)
- 第2章 自立活動の指導～自立と社会参加を目指して～
 - (1) 指導の基本「自立活動 27 項目の説明と病弱である児童生徒の状態と区分・項目の関連例①②」(pp. 32-35)
 - (2) 病弱である児童生徒の自立活動 (pp. 37-48)
 - (3) 自立活動の指導内容及び留意点 (pp. 49-69)
- 第3章 自立活動と各教科等との関連
 - (1) 指導上の配慮事項 ⑥病状の変化に応じた指導上の配慮 (p. 74)

まず、試案の第1章(5)①病弱の状態等の把握(pp. 3-5)、第2章(1)指導の基本「自立活動 27 項目の説明と病弱である児童生徒の状態と区分・項目の関連例①②」(pp. 32-35)を参考に、児童の実態把握を行う。また、試案巻末の様式1-①②「自立活動目標設定シート」を用いて実態把握し、病弱の状態の把握(pp. 3-5)の中の身体の健康と安全、運動・動作、病気の理解について、課題を抽出して、指導目標と指導内容を検討する。検討する際は、学級担任・副担任、児童に関わっている教諭及び講師、学部主事、総括教務主任、前担任、特別支援教育コーディネーターを交えた検討会を開き児童の実態や家庭生活、医療や福祉との連携など様々な視点から意見を出し合い、現時点で指導すべき課題を抽出し、指導目標を設定する。次に、実践場面を想定し、指導内容及び指導の手立てを検討する。本授業では、自己の身体について知り、食事や運動の大切さを学ぶことで、自己理解と生活管理の力を高めたい。

試案の活用を通して、病弱教育における専門的な視点を踏まえた授業を行うことで、教員の専門性の向上と指導の充実につながるものと考えている。

5 児童の実態と本題材の評価基準

【区分（項目）】	実態（自立活動指導資料との関連ページ）	評価基準
【1 健康の保持（1）】	<ul style="list-style-type: none"> ・肥満があり少し動くと呼吸が苦しくなり、疲れやすい。 ・食えることが好きである。 ・野菜を残すことがあるが、教師の声掛けで少量食えることができる。 ・食事のときあまり噛まない。 <p>(p. 50)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体重が適正体重よりも重いことを知ることができる。 <p>【1 健（2）（5）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で決めた回数噛んで食べてみようとする。 <p>【1 健（1）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で決めた運動に取り組むことができる。 <p>【1 健（5）】【5 身（1）】</p>
【1 健康の保持（2）】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の身体の状態を理解していない。 <p>(p. 51)</p>	
【1 健康の保持（5）】	<ul style="list-style-type: none"> ・肥満があり体重管理が必要である。 <p>(p. 53)</p>	
【5 身体の動き（1）】	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行が不安定で走ると転びやすい。また、転ぶときに手が出ない。 ・ボール遊びやダンスが好きである。 ・基本的な生活習慣はほぼ身に付いている。 <p>(p. 63)</p>	

6 単元指導計画（全4時間）

	日時	学習内容	個別の目標
第1時	9月19日（火） 4校時	<ul style="list-style-type: none"> ・身長と体重を知る。 ・適正体重を知る。 ・適正体重との差の重さを体感する。 ・体重が増え過ぎることによる身体への影響を考えたり知ったりする。 ・体重が適正体重に近づくとどのようなよさがあるのか考えたり知ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体重が適正体重より重いことを知ることができる。 【1健（2）（5）】
第2時	9月20日（水） 3校時	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようなものを食べるとよいのかを知る。 ・どのくらい食べるのがよいのかを知る。 ・どのように食べたらよいのかを知る。 ・咀嚼する回数を決めてご飯を食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で決めた回数噛んで食べようとする。 【1健（1）】
第3時	9月21日（木） 4校時	<ul style="list-style-type: none"> ・普段やっている運動は何か考える。 ・運動するとどんなよいことがあるのか考えたり知ったりする。 ・一日どのくらい運動するとよいかを知る。 ・家でできる運動について考える。 ・家でできる運動を選ぶ。 ・家でできる運動をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で決めた運動に取り組むことができる。 【1健（5）】【5身（1）】
第4時	9月21日（木） 5校時	<ul style="list-style-type: none"> ・準備体操をする。 ・運動を選ぶ。 ・運動をする。 ・リラックスする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で決めた運動に取り組むことができる。 【1健（5）】【5身（1）】

7 展開

(1) 9月19日(火) 4校時(第1時/全4時間)

学習課題:「自分のからだを知ろう」

試案 p. 〇

試案は現在の自立活動指導資料を指す。

時間	学習活動	・指導上の留意点 ☆支援 ◇評価
導入 5分	1 あいさつをする 2 単元目標を確認する 3 本時のめあてと学習内容を確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">「自分のからだを知ろう」</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ T 1 は注目を促してから説明する。 ・ 児童が単元の見通しをもてるように、T 1 は単元の目標と学習の予定表を黒板に提示する。また、4つのミッションをクリアしながら健康について学習していくことを伝える。 ・ 児童が本時の学習に見通しをもって取り組めるように、T 1 は本時のめあてを確認する。また、本時は5つのことについて学習するとミッションクリアになることを伝える。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px 10px; border-radius: 5px;">試案 p. 16</div> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px 10px; border-radius: 5px;">試案 p. 51</div> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px 10px; border-radius: 5px;">試案 p. 62</div> </div>
展開 30分	4 ミッション1 (1) 身長と体重を知る (2) 適正体重を知る (3) 適正体重との差の重さを体感する (4) 体重が増え過ぎることによる身体への影響を考えたり知ったりする	<ul style="list-style-type: none"> ☆事前学習のプリントを準備し、児童が授業の前に、自分の身長、体重、適正体重がどのくらいだと思えるか考えて記入できるようにする。 ・ 児童が自身の身長と体重を実際に測定し確認することができるように、身長計、体重計を用意する。 ☆児童が自分の体重を日々記録し変化を把握できるように、体重管理アプリを活用する。 <div style="text-align: right; margin-top: 10px; background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px 10px; border-radius: 5px;">試案 p. 21</div> <ul style="list-style-type: none"> ☆児童が理解しやすいように、適正体重は「ちょうどいい体重」という表現で伝えるようにする。 ・ 児童の体重が適正体重からどのくらい重いのか、重さを体感できるように、20 kgの重さのもの(10 kgの米袋を2袋をそれぞれ布で包んだもの)を用意する。 <div style="text-align: right; margin-top: 10px; background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px 10px; border-radius: 5px;">試案 p. 77</div> <ul style="list-style-type: none"> ☆児童が20 kgを持ち上げる際、転倒したり、手指や手首を痛めたりしないように、T 2 は手本を見せながらゆっくり持ち上げるように声をかける。児童自身、どう感じているのか考えることができるように、児童の表情を見ながら、「どうですか?」と尋ねるようにする。20 kg全量を体感するために、児童が椅子に座った状態で10 kgの米袋を背負いながら、10 kgの米袋を手を持つことができるようにする。T 1、T 2 は児童の表情を見ながら、安全面に十分配慮する。 ◇自分の体重が適正体重よりも重いことを知ることができる。 【1健(2)(5)】 ☆体重が増え過ぎることによる身体への影響や適正体重に近くとどのようによさがあるのか考えることができるように、T 2 は(3)で体感したことを思い出して考えられるよう声をかけたり、考える時間を設けたりする。 ☆体重が増え過ぎることによる身体への影響を知ることができるように、T 2 は肥満体型の画像と共に、児童の生活に即した内容(疲れやすくなる、転びやすくなる等)や病気になる

	(5) 体重が適正体重に近づくとどのようなよさがあるのか考えたり知ったりする	危険があることを文字とイラストで視覚的に提示する。 ☆適正体重に近づくとどのようなよさがあるのか知ることができるように、児童の生活に即した内容（疲れにくくなる、転びにくくなる等）や病気になりにくくなることを視覚的に提示する。
終末10分	5 振り返りをする 6 次の時間の予定を確認する 7 あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返られるように、振り返りシートを用意する。 ☆児童が本時の学習を振り返りしやすいように、また児童の書くことへの負担感を軽減するため、「はい」か「いいえ」で振り返る項目を設定する。児童がこの授業で感じたことを振り返ることができるように、具体的にどんなことを感じたか記述する欄も設定する。 児童が達成感をもてるように、T1は児童が頑張っていたところを称賛し、予定表にミッションクリアのシールを貼る。 <p style="text-align: right;">試案 p. 58</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が見通しをもてるように、T1は予定表を提示しながら予定の確認を行う。 <p style="text-align: right;">試案 p. 62</p>

【事前学習の内容】

1	身長は何cmですか？	cm
2	体重は何キロですか？	キロ
3	ちょうどよい体重は何キロだと思いますか？	キロ

【振り返りシートの内容】

1	自分の身長と体重がわかりましたか？	はい ・ いいえ
2	ちょうどよい体重が何キロか わかりましたか？	はい ・ いいえ
3	20 キロを持ってみてどう思いましたか？	
4	体重が 増え過ぎるとどうなるかわかりましたか？	はい ・ いいえ
5	体重が ちょうどいい体重に近づくとどんなよいことがありますか？	

(2) 9月20日(水) 3校時(第2時/全4時間)

学習課題:「食事について知ろう」

時間	学習活動	・指導上の留意点 ☆支援 ◇評価
導入 5分	1 あいさつをする 2 単元目標を確認する 3 前時学習内容を復習する 4 本時のめあてと学習内容を確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">「食事について知ろう」</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ T 1 は注目を促してから説明する。 ・ 児童が単元の見通しをもって学習できるように、T 1 は単元の目標と予定表を黒板に提示し、本時は2時間目であることを伝える。 ・ 前時の学習内容を復習できるよう、前時のまとめのスライドを使用し、クイズ形式で提示する。 ・ 児童が本時の学習に見通しをもって取り組めるように、T 1 は本時のめあてを確認する。また、本時は5つのことについて学習するとミッションクリアになることを伝える。 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> 試案 p. 16 試案 p. 51 試案 p. 62 </div>
展開 30分	5 ミッション2 (30分) (1) どのようなものを食べるとよいのかを知る (2) どのくらい食べるのがよいのかを知る (3) どのように食べたらよいのかを知る (4) 咀嚼する回数を決めてご飯を食べる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の健康に関わる食事や運動について、興味をもって考えることができるように、クイズ形式のスライドを用いる。本時は食事について学習することを伝える。 ☆白米の制限量(医師からの指示)の具体量が分かるように、具体物を提示する。また、食パンやロールパン、麺だとどのくらいになるのかが分かるように、具体物を提示する。具体物は実際に手に取って見られるようにする。 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> 試案 p. 77 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童がよい食べ方について考えられるように、2種類のイラスト(急いで食べているイラストとゆっくりよく噛んで食べているイラスト)を提示し、どちらの食べ方がよいか考える時間を設定する。 ・ よく噛んで食べることのよさについて文字とイラストで視覚的に提示する。 ☆児童が普段食事の際に何回くらい噛んで食べているか自分で確認することができるように、児童が実際に食事している様子を事前に撮影しておき、それを視聴できるようにする。 ☆児童が何回噛んだのか分かるように、T 2 は、児童の噛むタイミングに合わせて数を数えるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ☆咀嚼する回数を確認できるように、児童の咀嚼に合わせてT 2 が数を数えるようにする。 <p>◇自分で決めた回数噛んで食べようとする。</p> <p>【1健(1)】</p>
終末 10分	6 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ☆児童の書くことへの負担感を軽減しながら学習の振り返りができるように、丸をつけて記入できるよう振り返りシートを用意する。 ・ 学習後の昼食時の様子を動画撮影し、次時の学習で噛む回数の変化を確認できるようにする。

	<p>7 次の時間の予定を確認する</p> <p>8 あいさつをする</p>	<p>・児童が達成感をもてるように、児童が頑張っていたところを称賛し、T1は予定表にミッションクリアのシールを貼る。</p> <p>・児童が見通しをもてるように、T1は次の時間の予定を伝える。</p>
--	--	--

試案 p. 58

試案 p. 62

【振り返りシートの内容】

ふりかえりシート		
1	自分にとってちょうどよいごはんの量は？	両手 ・ 片手 にのるくらい
2	自分にとってちょうどよいパンの量は？	両手 ・ 片手 にのるくらい
3	食べるときは何回かむのがいい？	5回 ・ 10回 ・ 30回
4	自分できめた回数、またはきめた回数より多くかんで食べることができましたか？	◎（きめた回数より多くかめた） ○（きめた回数かめた） △（きめた回数より少なかった）
5	これからたくさんかんで食べようと思いましたか？	はい ・ いいえ

(3) 9月21日(木) 4校時(第3時/全4時間)

学習課題:「家でできる運動について知ろう」

時間	学習活動	・指導上の留意点 ☆支援 ◇評価
導入 5分	1 あいさつをする 2 単元目標を確認する 3 前時の復習をする 4 本時のめあて学習内容を確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・ T 1 は注目を促してから説明する。 ・ 児童が単元の見通しを持って学習できるように、単元の目標と予定表を黒板に提示し、本日は3時間目であることを伝える。 ・ 児童が本時の学習に見通しをもって取り組めるように、T 1 は本時のめあてを確認する。また、本時は5つのことについて学習するとミッションクリアになることを伝える。 ・ 前時の学習内容を復習できるよう、前時のまとめのスライドを使用し、クイズ形式で提示する。 ☆前時で学習したことの中から、噛む回数について気を付けて食べられていたか振り返られるように、事前に撮影した昼食時の様子を視聴する。 ・ 児童が本時の学習に見通しをもって取り組めるように、T 1 は本時のめあてを確認する。また、本時は六つのことについて学習するとミッションクリアになることを伝える。
「家でできる運動について知ろう」		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> 試案 p. 16 試案 p. 53 試案 p. 62 </div>
展開 30分	5 ミッション3 (20分) (スライド) (1) 普段やっている運動は何か考える (2) 運動するとどんなよいことがあるのか考えたり知ったりする (3) 一日どのくらい運動するとよいかを知る (4) 家でできる運動について考える	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の健康に関わる食事や運動について、興味をもって考えることができるように、T 2 はクイズ形式のスライドを用いる。本時は運動について学習することを伝える。 ☆普段やっている運動について考えることができるように、T 2 は本児がやっている運動について取り上げて提示する。 ☆運動するとどんなよいことがあるのか考えられるように、1 回目の授業で使用したスライドを提示しながら考えられるようにする。 ☆児童がどのくらい運動するとよいかを知ることができるように、T 2 は具体的な運動時間を提示する。また、具体的に児童が学校でどのくらいの時間運動できているか提示する。 ☆家でできる運動について考えることができるように、普段家でやっている運動はないか尋ねる。また、その他にできそうな運動はないか尋ねる。 ・ 家でできる運動として、三つの運動(つかまりスクワット、バランスボール、ダンス)を提示する。児童が家で運動することを具体的に考えられるように、家でやるとしたら、どこでできると思うか、尋ねるようにする。 ・ 三つの運動の他、お手伝いも立派な運動になることを伝え、七つのお手伝いを提示する。
		試案 p. 16
		試案 p. 16
		試案 p. 26

	<p>(5) 家でできる運動を選ぶ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>① つかまりスクワット ② バランスボール ③ ダンス</p> </div> <p>(6) 家でできる運動をする (※「運動を選ぶ」→「運動をする」を2回行う)</p>	<p>☆児童が主体的に活動したり、成就感を味わったりできるように、T1は運動メニューカードを提示し、児童が運動を選ぶことができるようにする。</p> <p>☆児童が安全にスクワットできるように、必ず手すり又は椅子につかまってスクワットするようにする。</p> <p>☆児童が安全にバランスボールをすることができるよう、手をしっかり開いて床に付くように声をかける。</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 63</p> <p>☆児童が楽しくダンスできるように、T2も一緒に踊る。</p> <p>◇自分で決めた運動に取り組むことができる。</p> <p style="text-align: center;">【1健(5)】【5身(1)】</p>
<p>終 末 10 分</p>	<p>6 振り返りをする</p> <p>7 次の時間の予定を確認する</p> <p>8 あいさつをする</p>	<p>☆児童が学習したことの中から、分かったことややってみたいことを振り返られるよう、振り返りシートを用意する。児童の書くことへの負担感を軽減しながら学習の振り返りができるように、書きたいことが多い場合には、T1が聞き取って記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が達成感をもてるように、児童が頑張っていたところを称賛し、予定表にミッションクリアのシールを貼る。 ・児童が見通しをもてるように、T1は次の時間の予定を伝える。 <p style="text-align: right;">試案 p. 58</p> <p style="text-align: right;">試案 p. 62</p>

【振り返りシートの内容】

ふりかえりシート		
1	家でできる運動に取り組むことができましたか。	◎ ・ ○ ・ △
2	家でやってみたい運動やお手伝いに○をつけましょう。	※3種類の運動及び7種類のお手伝いのイラストと文字を記載する。

◎：できた ○：まあまあできた △：できなかった

(3) 9月21日(木) 5校時(第4時/全4時間)

学習課題:「いろいろな運動をしよう」

時間	学習活動	・指導上の留意点 ☆支援 ◇評価
導入 5分	1 あいさつをする 2 単元目標を確認する 3 本時のめあてと学習内容を確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">「いろいろな運動をしよう」</div>	☆休憩の際水分を摂ることができるよう、授業の前に水筒を持参するよう声をかける。 ・T1は注目を促してから説明する。 ・見通しを持って学習できるように、T1は単元の目標と予定表を黒板に提示し、「けんこうについて考えよう」4時間目であること、本日はミッション4について学習していくことを伝える。 ・児童が本時の学習に見通しをもって取り組めるように、T1は本時のめあてを確認する。また、本時は五つの運動から三つの運動に取り組むとミッションクリアになることを伝える。主体的に活動できるように、運動の種類は児童が選ぶようにする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">試案 p. 16</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">試案 p. 62</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">試案 p. 63</div> </div>
展開 35分	4 ミッション4 (1) 準備体操をする (2) 運動を選ぶ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ① ランニング・ウォーキング ② 四つ這い ③ 高這い ④ つかまりスクワット ⑤ ダンス </div> (3) 運動をする (※「運動を選ぶ」→「運動をする」を3回行う)	☆児童が安全に運動ができるように、膝、手首、足首、肩回りを中心に準備体操を行う。 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px 5px; width: fit-content;">試案 p. 63</div> ☆児童が主体的に活動したり、成就感を味わったりできるように、T1は運動メニューカードを提示し、児童が運動を選ぶことができるようにする。 ☆ランニング・ウォーキングとつかまりスクワットは目標周回数・回数を定めることができるようにT1は運動メニューカードと振り返りシートを提示する。 ☆呼吸が苦しくなった時はどうしたらよいか確認できるように、運動の前に体調カードを提示し確認する。 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px 5px; width: fit-content;">試案 p. 74</div> ☆児童が安全に運動できるよう、T2は児童の動きや表情を確認しながら、一緒に運動するようにする。呼吸の状態を見て休憩を促すようにする。(T1:振り返り用の動画撮影) ☆児童が安全に四つ這いできるように、T2は児童の表情を見ながら一緒に四つ這いをする。(T1:振り返り用の動画撮影) ☆児童が安全に高這いできるように、T2は児童の動きや表情を見ながら、一緒に高這いする。(T1:振り返り用の動画撮影) ☆安全且つ効果的にスクワットができるように、手すり椅子を使用する。T2は5秒で椅子の位置までお尻を下げ、2秒キープするよう声をかける。(T1は振り返り用の動画撮影、回数を数え記録) ☆児童が楽しみながら身体を動かすことができるように、ランニング・ウォーキング、ダンスでは、児童が好きな曲を選曲する。 ◇自分で決めた運動に取り組むことができる。 【1健(5)】【5身(1)】

	5 リラックスする	・心身ともにリラックスできるように、床に横になり、ゆっくり呼吸するよう促す。
終 末 5 分	6 振り返りをする	☆児童が本時の学習を振り返ることができるよう、記録カードを用意し、児童が記入できるようにする。 ☆児童が自分の頑張りを客観的に確認できるよう、活動の様子を動画撮影したものを振り返りの際に提示する。
	7 あいさつをする	・児童が達成感をもてるように、児童が頑張っていたところを称賛し、予定表にミッションクリアのシールを貼る。

試案 p. 22

試案 p. 58

【振り返りシートの内容】

振り返りシート			
取り組んだら ○を付ける	運動名	目標の周数・回数	やった回数
	ランニング・ウォーキング	周	周
	四つ這い		
	高這い		
	つかまりスクワット	回	回
	ダンス		
感想			

【資料6】 小学部「自立活動目標設定シート」(児童C)

学部学年	(小)・中・高 年	氏名	C
教育課程 (小・中)	通常学級 (準ずる教育A) (重複障害学級)		
教育課程 (高)	通常学級・重複学級		

手順1 実態把握

① 興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等についての情報交換

興味・関心 苦手なこと	好きなこと 得意なこと	・ダンス・ボール遊び (ボールを蹴って追いかける遊び、簡単なドッジボール) ・キャラクターのものまね		
	苦手なこと	・時間を気にして行動すること (マイペース)		
学習や生活の中で 見られるよさと課題	よさ	・友達や先生と遊ぶことができる。・情緒が安定していることが多い。 ・学習に意欲的に取り組む。 ・基本的な生活習慣はほぼ身につけており、時間はかかるが自分ができる。		
	課題	・自分の意と反することは聞こえないふりをする。 ・肥満があり体重管理が必要・少し動くと呼吸が苦しくなるが、休憩しないことがある。 ・食事の時、あまり噛まない。・野菜を残すことがある。 ・走ると転びやすい。・転んだ時に手が出ない。・歩行が不安定。		
	Co-MaMe (必要に応じて記入)	A1~F5	段階	支援・配慮

② 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階

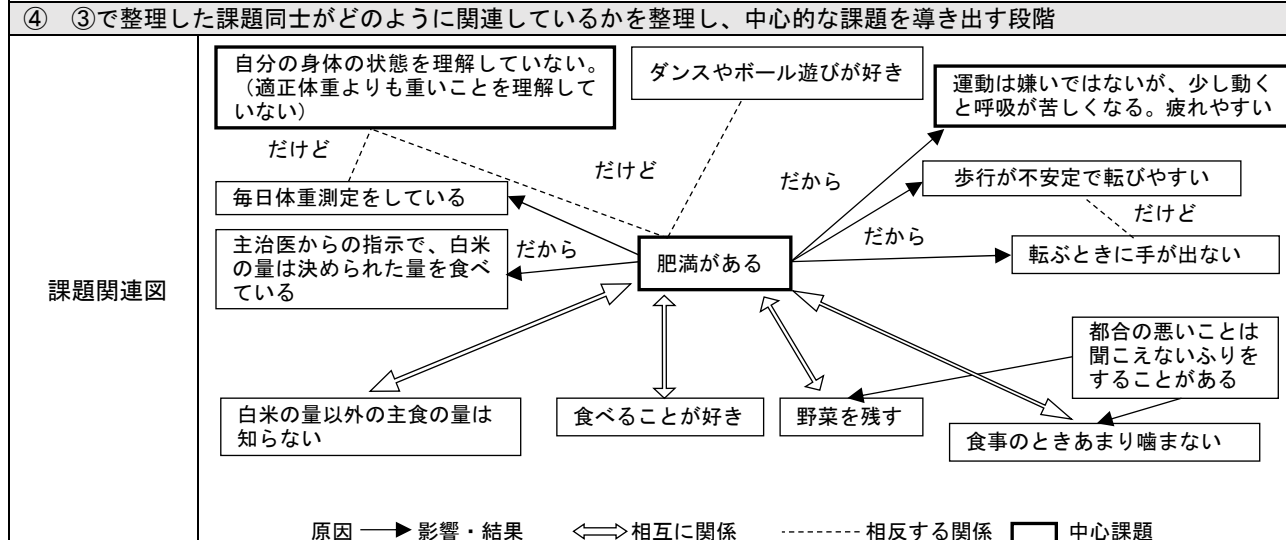
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 肥満があり、少し動くと呼吸が苦しくなり、疲れやすい。	(1) 情緒が安定していることが多い。	(1) 友達や先生と仲良く遊ぶことができる。		(1) 転んだ時に手が出ない。	(1) 友達や教師との会話を楽しむ様子が見られる。
(1) 野菜を残すことがある。	(1) 学習に意欲的に取り組む。			(3) 基本的な生活習慣はほぼ身に付いている。	(1) 自分の意と反することは聞こえないふりをする。
(1) 食事の時、あまり噛まない。				(4) 歩行が不安定で、走ると転びやすい。	
(2) 肥満があるが、自分の身体の状態を理解していない。				(4) ボール遊びやダンスが好き。	
(5) 肥満があり、体重管理が必要。					

手順2 課題の抽出と関連の整理

③ をもとに②で整理した情報から課題を抽出する段階

・肥満があり体重管理が必要だが、自分の身体の状態を理解していない。(健)

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階



④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

【指導すべき課題】(つけてほしい力、これから獲得すべきこと、○年後に向けて今つけた力)
 ・自分の身体の状態を知り、食事や運動に気を付けて生活できる力(食事や運動に気を付けて生活できるようになれば、肥満が改善され活動しやすくなるのではないかと考える)

手順3 指導目標の設定					
課題同士の間を整理する中で今指導する目標として					
⑤ ④に基づき設定した指導目標を記す段階					
【長期目標】 ・自分の身体の状態が分かり、運動と食事に気を付けて過ごすことができる。					
【短期目標】 *条件、行動、基準を示す ・体重を自分で記録したり、適正体重との差を体感したりすることをとおして、自分の体重が適正体重よりも重いことを知ることができる。 ・自分で決めた回数噛んで食べてみようとする。 ・自分で選んだ運動に取り組むことができる。					
手順4 具体的な指導内容の設定					
指導目標を達成するために必要な項目の設定					
⑥ ⑤を達成するために必要な項目の設定					
⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。	(1) 情緒の安定に関する事。	(1) 他者とのかわりの基礎に関する事。	(1) 保有する感覚の活用に関する事。	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。
(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。	(2) 理解と変化への対応に関する事。	(2) 他者との意図や感情の理解に関する事。	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。	(2) 言語の受容と表出に関する事。
(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事。	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事。	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。	(3) 言語の形成と活用に関する事。
(4) 障害の特性と生活環境の調整に関する事。		(4) 集団への参加の基礎に関する事。	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。	(4) 身体の移動動作に関する事。	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。
(5) 健康状態の維持・改善に関する事。			(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。
設定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定					
⑧ 具体的な項目を関連付ける段階					
<指導内容> ・自分の体重が適正体重よりも重いことを知ることができる。(そのために、【健康の保持(2)(5)】を関連付けて設定する。)	<指導内容> ・自分の決めた回数で噛んでみようとする。(そのために、【健康の保持(1)】を関連付けて設定する。)	<指導内容> ・自分で選んだ運動に取り組むことができる。(そのために、【健康の保持(5)】【身体の動き(1)】を関連付けて設定する。)			
<指導の手立て> ・身体測定の時間を設定する。 ・体重記録のアプリケーションを活用し、身体測定の結果を記録できるようにする。 ・20kgの具体物を持ちたり背負ったりして、重さを体感できるようにする。	<指導の手立て> ・よく噛んで食べることの大切さを提示する。 ・普段の食事の様子を視聴し、何回噛んでいたか理解できるようにする。 ・自分で目標を決められるようにする。	<指導の手立て> ・児童の好きな曲を取り入れ、曲に合わせて体を動かすことができるようにする。 ・教師と一緒に有酸素運動と無酸素運動に取り組めるようにする。 ・児童が自分で運動を選ぶことができるように運動内容を視覚的に提示する。			
<指導の場面> ・自立活動の時間 ・日常生活の時間	<指導の場面> ・自立活動の時間 ・日常生活の時間	<指導の場面> ・自立活動の時間 ・日常生活の時間			
手順5 評価					
<評価基準> ・自分の体重が適正体重よりも重いことを知ることができる。	<評価基準> ・自分で決めた回数噛んで食べてみようとする。	<評価基準> ・自分の選んだ運動に取り組むことができる。			

【資料7】 「自立活動指導資料（病弱）」（試案）に関する調査及び調査結果

I 調査の概要

1 調査名	特別支援学校における障がい種に応じた教員の専門性の向上と指導の充実に関する研究に係る調査
2 目的	「自立活動資料資料（病弱）」（試案）に関する調査を通して、その有用性を検証する。得られた結果を基に「自立活動指導資料（病弱）」（試案）を修正し、完成を目指す。
3 調査期間	令和5年9月21日（木）～10月10日（火）
4 対象	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の病弱特別支援学校の管理職及び教員 131名 ・授業実践に関わる部分の調査については、盛岡青松支援学校の管理職及び教員 43名 ・授業実践に関わるインタビューについては、授業実践に関わった教員 9名
5 方法	Microsoft Forms アプリを使用（インタビューは除く）

II 調査項目

		項目
フェイスシート		学校名・所属学部・名前
質問票 ※問5のみ インタビュー	問1	授業実践①で活用した「自立活動指導資料（病弱）」（試案）は、病弱教育の専門的な視点や内容が分かりやすく示され、授業づくりで活用できるものになっているか。
	問2	問1の理由
	問3	授業実践②で活用した「自立活動指導資料（病弱）」（試案）は、病弱教育の専門的な視点や内容が分かりやすく示され、授業づくりで活用できるものになっているか。
	問4	問3の理由
	問5	病弱教育の自立活動の指導の授業づくりをする上で感じている困難さが変化したか。（例：実態把握、課題の抽出、目標設定等）
	問6	「自立活動指導資料（病弱）」（試案）は自立活動の授業に活用できるものになっているか。
	問7	問6の理由
	問8	「自立活動指導資料（病弱）」（試案）全体を通して、改善してほしい点や工夫を要する点について。
	問9	自立活動の授業以外に、今後どのような場面で「自立活動指導資料（病弱）」を活用してみたいか。

III 調査結果

1 フェイスシート

調査対象 132 名中 122 名から回答を得た。回収率は 92.4%だった。

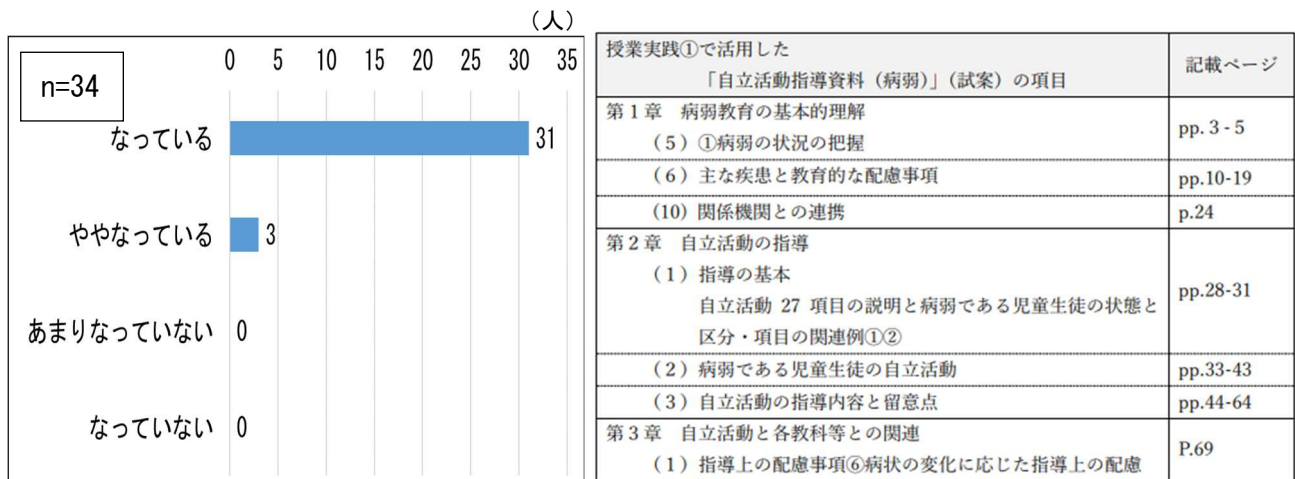
項目	回答内容	
学校名	・盛岡となん支援学校	8 / 11
	・盛岡青松支援学校	43 / 43
	・花巻清風支援学校	3 / 4
	・一関清明支援学校	36 / 48
	・釜石祥雲支援学校	22 / 25
所属学部	・小学部	43
	・中学部	34
	・高等部	35
氏名	氏名の記入をお願いした。	

2 調査結果

授業実践を参観した人数は43名中以下のとおりである。

授業実践1を参観	授業実践2を参観
34名	30名

問1 授業実践①で活用した「自立活動指導資料（試案）」（表に記載の項目）は、病弱教育の専門的な視点や内容が分かりやすく示され、授業づくりで活用できるものになっていますか。あてはまるものを選択してください。（必須）



問2 問1の理由を御入力ください。（任意）

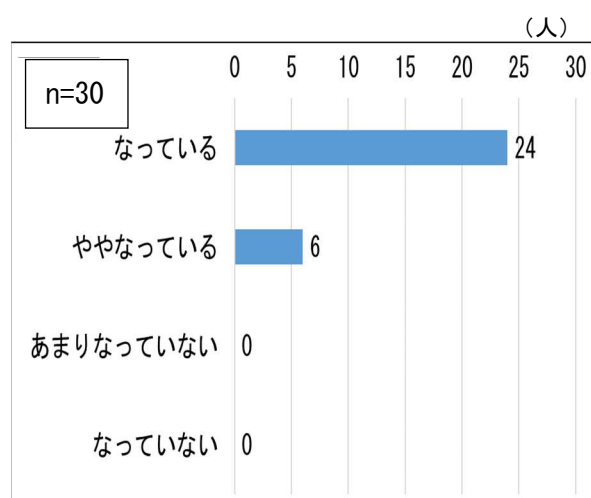
「なっている」「ややなっている」の理由（原文ママ）

「なっている」の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・指導者がおさえておかなければならないことがまとめられている。 ・項目ごとに視点が分類されてて分かりやすい。 ・指導案に試案参照ページが詳しく示されていたので、授業づくりの参考になります。そして自立活動目標設定シートが指導の基本になっていることが理解できる内容になっていると思います。 ・p28～p31の「自立活動 27 項目の説明と病弱である児童生徒の状況と区分・項目の関連例」は、項目の説明だけでなく、児童生徒の状態の具体例と指導内容の具体例がまとまっていて参考になっている。 ・病弱は一般的な言葉で、それ自体専門用語ではないために、「病弱教育」とは実際どのような内容のことを指すのか、正しく理解しにくいと思います。第1章では、正しい理解を促すための内容が整理されているために、正確な実態把握のための資料として有効だと感じます。どの方にも、まずは第1章を読み込んで、正確に理解していただきたいと思います。 ・複数の教師が実態把握して自立活動の目標を設定する際に、優先すべき項目を確認できる。 ・児童生徒の実態把握や目標を設定する際に、丁寧な実態把握をしたり職員間での共通理解の上での指導にとっても役立つと感じたため。 ・児童の実態が、きちんと把握されており、授業の中で、それぞれに細かな配慮がなされていた。 ・児童生徒の病状に合わせ、教材教具や場の設定が工夫されていた。 ・体調カードや気持ちカード等を利用した、わかりやすく、自分の気持ち体調を発表できるようになっていると思います。遊びの場面でも、ルールを確認し実際に見本を見せ適切な行動を具体的に指導することができていると思います。全体的にわかりやすく楽しみながら、自然にふわふわ言葉を出すことができていると思います。 ・病弱教育が必要な児童生徒は自分の気持ちを的確に言葉で表現することが難しい場合が多く、気持ちと真逆の言葉の表出をしてしまうことがあるため、丁寧に「チクチク言葉」「フワフワ言葉」の表現を覚えることは自立活動のコミュニケーション能力を身に付けるのに役立つと思います。 ・分かりやすく、見やすい。QRコードやコラムで深められるので親切。

「ややなっている」の理由

- ・ p. 44-64 を授業者全員で理解して指導をしていることで、声かけや指導に統一感があり、安心して児童生徒が学習をすることができていると感じた。
- ・ ふわふわ言葉とちくちく言葉などのカテゴリーに分けて、実践されたところは児童にとっても大変わかりやすくよい活動だと感じた。一方で、愛着障がいのある児童生徒は、感情の分化ができず波があり、言語化できないことがある。そのような場合は、直接本人にどのような気持ちや感情なのかを問うことはNGと言われている。対応として、今の気持ちや感情の状態を表す言葉増やすこと、共感する手段として指導者や支援者が本人とやりとりしながら返す取り組みも必要だと考える。

問3 授業実践②で活用した「自立活動指導資料（試案）」（表に記載の項目）は、病弱教育の専門的な視点や内容が分かりやすく示され、授業づくりで活用できるものになっていますか。あてはまるものを選択してください。（必須）



授業実践②で活用した 「自立活動指導資料（病弱）」（試案）の項目	記載ページ
第1章 病弱教育の基本的理解	
（5）①病弱の状況の把握	pp.3-5
（6）主な疾患と教育的な配慮事項	pp.10-19
（7）ICT活用について	pp.20-21
第2章 自立活動の指導	
（1）指導の基本 自立活動 27 項目の説明と病弱である児童生徒の状態と 区分・項目の関連例①②	pp.28-31
（2）病弱である児童生徒の自立活動	pp.33-43
（3）自立活動の指導内容と留意点	pp.44-64
第3章 自立活動と各教科等との関連	
（1）指導上の配慮事項⑥病状の変化に応じた指導上の配慮	pp.69

問4 問3の理由を御入力ください。

「なっている」「ややなっている」の理由（原文ママ）

「なっている」の理由

- ・ 児童の実態把握から目標設定までのやり方が参考になる。
- ・ 児童の苦手な面だけでなく得意なことや好きなことを活かし、目標を確認しての指導につながると感じたため。
- ・ 実践②では、病弱教育の児童生徒の教育的ニーズを整理するための観点を確認することで、自立活動の具体的内容が把握できる。
- ・ 授業実践①でも同様のことが言えるのですが、p.34～43の「自立活動目標設定シート」の手順を丁寧に進めることで、課題の抽出がしやすくなる点です。児童生徒を観察したとき、課題はたくさん見つかるのですが、授業での目標設定、「課題の抽出（課題をしぼる作業）」が困難を極めます。その点について特に活用できると考えます。
- ・ 様々な病状に対する考え方が取り上げられている。
- ・ 項目を細かく分けてありわかりやすいです。
- ・ 内容が明確化されわかりやすい。
- ・ 適正体重を「ちょうどいい体重」という児童が理解できる表現で伝えたり、適正体重からどのくらい重いのかを10kgの米袋を使用しわかりやすく重さを体感できるものを準備しているところがよかったです。
- ・ 日常的に自主的に体力づくりをする力を身に付けることにつながっているのが効果的だと思います。
- ・ 児童生徒の実態に合わせたICT活用の指導がまとめられていて、とても参考になる。自立活動

とのつながりが明記されているのもわかりやすい。

- ・児童が意欲的だった。
- ・分かりやすく、見やすい。QRコードやコラムで深められるので親切。

「ややなっている」の理由

- ・それぞれに必要な配慮が丁寧に記載されているため。
- ・病弱教育の基本的理解と、自立活動の指導の要点が示され、普段の指導に活かせるものとなっていたから。
- ・自分の身長・体重について知ることで、どんな病気につながるかスライドで分かりやすく提示できていてよかった。
- ・全部の授業を参観していないので、よく分からないが、参観した授業ではなっている。健康の保持という区分で、目的と手段（手立て）の部分がはっきりさせるのであれば、本人がデータを入力して活用したり、過去1週間分の体重の推移を本人に分かりやすく提示したりするとよりICT活用ができるのではないかと感じました。また、健康の保持をデータ化したりグラフ化して提示することで、自分の健康の保持と身体の動きとの関連性が分かるのではないかと感じました。

問5 病弱教育の自立活動の指導の授業づくりをする上で感じている困難さが変化したか。

(例：実態把握、課題の抽出、目標設定等)

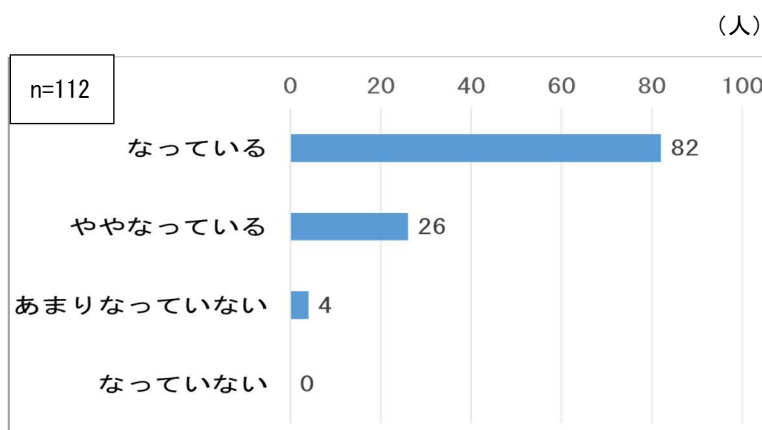
(n = 9)

- ・「自立活動 27 項目説明と病弱である児童生徒の状態と区分・項目の関連例」は、具体的に児童生徒の状態と指導内容例とが挙げられていることから、初めて病弱教育に携わる人はもちろん、経験年数に関わらず、目の前の児童生徒をイメージしながら実態把握できるツールであると思いました。これにより、実態把握するための軸となる観点が明らかとなるので、実態把握の困難さが軽減されると思いました。
- ・指導資料は児童の課題像と支援方法が具体的に記載されていたので、実態把握や課題抽出などで感じていた困難さが軽減されました。個別の指導計画に活用できると感じました。
- ・実態把握の観点や課題の抽出、目標設定の方法が分かりました。また、評価のポイントが分かりました。
- ・試案を活用して複数の教員で実態把握することで、子供の行動はもしかしたらこういうことが背景にあったのかなということが自分なりに整理できました。
- ・手順に従って目標設定シートを用いて個別の実態把握や目標設定ができました。
- ・自立活動6区分27項目がまとめられていて、確認しやすかったです。具体的な指導内容と留意点を見ることで、スムーズにシートを作ることができました。
- ・中心課題の整理では、現在、過去、未来で考えると目標設定の優先順位もイメージでき設定しやすかったです。
- ・p.44 からの指導内容及び留意点は、病弱支援学校における自立活動がまとめられているため、目標設定や自立活動で取り組む内容を考える際の手がかりになりました。
- ・評価についても、より細かな目標設定することで、やりやすくなると感じました。
- ・指導資料に記載されているC o - M a M e、K J法、必要項目の選定と具体的な指導内容、これらが、複数の教員が相談する際の手がかりとして大変有効だと感じました。また、目標設定の優先順位もこれらをチェックすることで把握することができました。
- ・目標設定シートをつくっていく過程として、複数人のK J法により児童の好きなこと、得意なこと、苦手なこと、課題等を書き出して集めたことで、様々な視点に気付くことができたり、おおよその教育的ニーズが明らかになったりする点が有効だと感じました。シートを手順に沿って作成することにより、課題の背景を共有できることで、指導に向かう教員の方向性をある程度揃えることができるので指導に一体感をもちやすいのではないかと感じました。
- ・課題相互の関連の整理をすることで、様々な場面における行動等の整理及び職員間の共通理解が図られました。
- ・自立活動指導資料（病弱）を活用することにより、「病弱教育」に初めて携わる人でもその基本を理解できると感じました。具体的には、病弱、身体虚弱的概念、病だけではなく心のケアの大切

さなど、主に第一章。

- ・自立活動指導資料（病弱）を活用することにより、初めて病弱児の自立活動指導に取り組む人にとって、その進め方がみてわかるようになっていたので有効だと思いました。
- ・シート作成の手順や注意点が具体例とともに細やかに示してあるので、書きやすかったです。
- ・具体的な指導内容を設定する際の配慮事項の記載があり、特に特別支援教育に携わって間もない人にとってわかりやすいのではないかと思います。
- ・他項目との関連例があることで、より広く捉えることができ、「教育活動を通じて」の取り組みとして意識しやすいと感じました。
- ・転出入の際の、観点の共有は、実際とても難しかった印象があります。生徒の転出にあたっては、自立活動は何をしたらいいのか？という声を中学校さんから聞かれることが多かったですし、自立活動の経過について質問されることすらなかったかもしれません。ですので、「自立活動目標設定シート」はまとまっておりますので、引継ぎの際に提示できるなど感じています。これまでは、どちらかというところ、自立活動の評価、個別の指導計画を示すことがほとんどだったからです。
- ・それぞれの先生のもってらっしゃる教科の中での対象児の話題が出ることで、その子の背景にあるものが分かたり感じられたりしたことも有意義だと思いました。
- ・この授業ではここをねらっていこうということが共通理解されるってということがその子にとっても安心して取り組んでいける大きな素地になっているのかなというところは感じます。
- ・自立活動指導資料を活用して話し合いをしたことで、4月、5月に立てた個別の目標や単元の目標が、実は実態より高かったことがわかり、授業（国語）がうまく行かない理由も少し分かった気がしました。
- ・「C o - M a M e のアセスメントシート」を活用すると、心理の項目のように、目に見えない心理的なところも共通理解が図られると感じました。
- ・（指導資料は）自活とは、から始まって、どういう内容でどういう項目でということを中心にきちんと捉えた上で、子供達の実態把握となったときは、こうだ、ということが示されていたので非常に分かりやすく良かったと思います。

問6 指導資料（試案）は病弱教育の専門的な視点や内容が分かりやすく示され、授業づくりで活用できるものになっているか。



問7 問6の理由を御入力ください。

「なっている」「ややなっている」の理由（原文ママ）

「なっている」の理由

- ・個別の指導計画を作成するうえで、常に手元に置いておきたいと思います。長期目標、短期目標を立てるうえで必要なこと、表記の仕方など改めて確認することができてありがたかったです。「こらむ」の欄も勉強になりました。
- ・指導内容及び留意点が具体的に明記されており、参考になるものが多い。
- ・自立活動の個別の指導計画作成から授業実践までの必要な情報が具体的かつ細部にまで行き届いており、大変参考になる資料だと思います。
- ・当てはまりやすい項目が多く、すぐに実践しやすい。また、授業を展開していく中で、T1以外の先生も的確で具体的な指導に行うことができる。
- ・自立活動 27 項目の説明と病弱である児童生徒の状態と区分・項目の関連例のところの分かりやすさと思います。
- ・指導の目標設定や手立ての確認や見直し等に役立てられる。
- ・p28「自立活動 27 項目の説明と病弱である児童生徒の状態と区分・項目との関連例①は対象児童生徒の状態と照らし合わせながら指導内容や活動をスムーズに考えることができるため。
- ・第2章自立活動の指導について、実態把握の方法から評価まで具体的に分かりやすく記載されているため。
- ・自立活動における具体的な手立てが記されているから。
- ・見落としがちな子供たちの様々な様子や行動の背景にあることにも目を向けながら、目標設定等ができるものとなっているから。
- ・項目ごとに児童生徒の障がいや状態並びに具体的な指導内容が示され、その中から選択し活用できる。
- ・病弱の児童生徒に接する際の基本的な項目がまとめられており、熟読したいと思います。
- ・教職員間で児童生徒のアセスメントや課題設定を行う際に共通理解するツールとして活用できる。
- ・導入から展開、終末に至るまでに、細かく丁寧に児童への配慮がなされていると思います。
- ・個の児童生徒の自立活動の目標の設定や達成のため役立つため。
- ・今まで自立活動編の指導要領解説を読み込んだり、自立活動や病弱教育の専門書を読んだりして、自立活動の個別の指導計画を作成し指導にあたっていたが、「自立活動指導資料（病弱）」（試案）は、基本的なことから実践例まで要点や具体例がまとまっているため、とても参考になると感じた。また、自立活動の指導や個別の指導計画の作成手順がわからない経験の浅い教員にとっても、指標になるものだと感じる。
- ・指導するにあたり、進め方や指導内容等が見やすく記載されている。
- ・生徒の実態や実際の授業の内容に即したものになっているから。
- ・児童生徒の障がいや状態と具体的な指導内容と留意点を書いてあり、対象生徒にあてはめて考えやすいと思いました。
- ・具体的な症状と留意点、配慮事項等参考になる。
- ・指導内容や留意点が詳細に書いてあるので。
- ・病弱学級の児童生徒の実態を把握するための情報やその背景、どのように支援したらよいかが記載されているので。
- ・説明が分かりやすく、目標立てや指導に関する具体例も豊富で、活用しやすいと思いました。
- ・障がいに特化した事例やねらい、法的根拠などがまとめてあるので、読み込むことでイメージもちやすい。
- ・基本的な理解を踏まえ、具体的に自立活動として、どのような内容を選定し、実践していくかが示されている。
- ・病弱に含まれる詳細の説明と自立活動との関連が明らかである。
- ・病弱教育に携わる者にとって、様々な資料やデータを参考にしながら実践にいかしていきませんが、そ

れがコンパクトに1冊にまとまっており、また、内容もよくまとまっていて参考になると感じました。

- ・内容が充実していました。手軽に開いて確認できてとても良いです。
- ・読みやすくまとめられており、活用しようと思うことができる。
- ・参考となるものがいろいろとまとめられている。
- ・健康面での理解や生活管理に関することや、心理、他者との関わり、言語の受容と表出について幅広く活用できると思います。
- ・いろいろ参考になった。
- ・具体例がたくさん書かれているので
- ・具体的な指導内容や留意点が記載してある。
- ・病弱教育についての知識が整理されていること、病弱教育の視点で自立活動の項目、また関連例が説明され、病弱教育における自立活動の全体及び具体が見渡せる資料となっている点で活用できると考えます。
- ・病弱や疾患、医ケア等の理解だけでなく、具体的な自立活動の内容や指導の手立てについても詳しく掲載されており、とても分かりやすいと思います。
- ・障がい種別、パターン別に配慮事項が記載されており、分かりやすい。
- ・内容が簡潔に網羅されていると思います。
- ・きめ細やかに配慮が考えられていた。
- ・病弱教育について基本的なところから丁寧に書かれてあり、初めて病弱教育に携わる人にもとても役立つと感じました。病弱の状態把握について医学的・心理学的・教育的側面からの視点でまとめられてあり、適切な実態把握をするために活用したいと思いました。
- ・病弱教育の基本的理解では、関連する必要な部分をもれなく取り上げられており、自立活動の指導・各教科との関連では、具体的な指導を例示し実際の指導の参考になる内容となっています。特に、自立活動の個別の指導計画の作成にかかわる部分は参考にしたいと思いました。
- ・とても見やすく分かりやすいと思いました。また、活用しやすく毎日の教育実践に取り入れやすいと思います。
- ・児童生徒の実態に合わせて、どのように授業内容や支援を考えていけばいいのかが分かる内容になっている。
- ・これまで、あまり視点が当たらなかった分野について扱われている。
- ・指針となるものがあると指導者の方向性が同じになることで、指導に統一感があり、児童生徒が安心して繰り返し学習できると感じた。
- ・簡潔に分かりやすく必要事項がまとめられている。
- ・様々な法令や通知等に示されている情報が整理されていること。具体的な疾患とそれに対する教育的な配慮事項が示されていること。より詳しく調べるための手立てとして参考資料のQRコードが示されていること。
- ・初めて病弱児童生徒の担当をする先生に分かりやすいと思います。
- ・初めて担当する場合、とても分かりやすい。
- ・病弱教育全体を見渡すことができ、自立活動の授業を計画する上で、大変参考になると思うから。
- ・学習指導要領解説等のポイントが良くまとめられている。
- ・とても参考になる。今後の自立活動の授業やその他の場面において活用していきたい。
- ・とてもわかりやすくまとめられているので、自立活動に詳しくない教員でも、活用しやすい資料だと思います。
- ・今まで、自立活動編の指導要領解説を読み込んだり、自立活動や病弱教育の専門書を読んだりして、自立活動の個別の指導計画を作成し指導にあたっていたが、「自立活動指導資料（病弱）」（試案）は、基本的なことから実践例まで要点や具体例がまとまっているため、とても参考になると感じた。また、自立活動の指導や個別の指導計画の作成手順がわからない経験の浅い教員にとっても、指標になるものだと感じる。

- ・基礎知識やシートが分かりやすかった。
- ・レイアウトが見やすく、使いたいところを探しやすい。
- ・イラスト等も交えて具体的に記載されていて、初めて病弱の自立活動を担当する職員にも分かりやすい内容でよい。
- ・今年度から医ケアのある児童を担当していますが、分かりやすかったです。
- ・個人のニーズが違うので、必ずしも当てはまらないと思われるので
- ・いろいろな病気についての資料がわかりやすかった。
- ・児童生徒の病状に合わせた例が示されていた。

「ややなっている」の理由

- ・第2章自立活動27項目の説明や自立活動の指導内容及び留意点が参考になった。
- ・具体的でよい
- ・生徒個々の実態把握や目標設定に活用できそうだと考えられるから。
- ・自立活動の項目別に分かれており、障がいの状態に応じた指導内容が記載されておるため、対象生徒の実態と目標に応じて活用しやすい。
- ・自立活動に関する内容が細かくまとめられているので、参考になると思います。
- ・自立活動と各教科等との関連についての記載もあり、参考になった。
- ・「主な疾患と教育的配慮事項」を参考にしながら、児童生徒個々の実態や状況に合わせて教育的な配慮を考えたり、「自立活動の指導」では知りたい内容について確認することができたり、授業を計画する上で参考になる内容が多いと感じたから。
- ・指導方法など具体的でわかりやすい。
- ・それぞれに必要な配慮を考えながら、授業を組み立てやすい内容になっている。
- ・子どもの実態に沿った自立活動ができる、アイデアが豊富にあると感じたから。
- ・入院等で学習空白が起らないように、ICT機器を使えることや心のケアについて知ることができた。
- ・生徒個々の実態把握や目標設定に活用できそうだと考えられるから。
- ・目標設定や、単元のバランスを考えるとときに活用できる。
- ・基礎を身につけ、実際の活動に活かしやすい。
- ・資料が読みやすくまとめられている。
- ・丁寧な説明で分かりやすい。
- ・量が多いので、読み込みに時間がかかる。
- ・題材、教材教具等、活用しやすい表記の仕方になっている。
- ・個人のニーズが違うので、必ずしも当てはまらないと思われるので
- ・資料が膨大で探し出せない。出典が書いてあるのはありがたいです。

「あまりなっていない」の理由とその対応（原文ママ）

「あまりなっていない」の理由	対応
① 活用したい部分もあるが、実際の授業の中で、指導資料を活用するとなると実践した後に評価する方法が分からない印象を受けた。それぞれの区分でタイプ別の段階表などの項目などがあると、授業実践する際に評価しやすいのではないかと思った。	○「第2章自立活動の指導」の「手順5評価」に評価の方法が分かるように具体例を追記することとする。タイプ別の段階表の作成は文部科学省の資料には記載がなく、難しい。

<p>② 回覧されていた際に、丁寧にきちんと読むことが難しかった。しっかり丁寧に読むことができれば、普段の指導の役に立つと思うが、なかなか読むきっかけや時間がないのが現実です。今回、アンケートに答えるために再度読んでみた。量が多くて全ては読むことが難しかったが、担当している生徒の疾患について記載されていて参考になった。このように必要な時に必要なところを読むように分かるところに保管してあると良いなと感じた。</p>	<p>○必要な情報を短時間で探しやすくできるよう工夫する。(総索引を付ける。目標設定シートとC o -M a M e アセスメントシートに逆引きを付ける。)</p> <p>○教育センターのホームページ掲載場所の周知を行う。また、校内の保管場所を周知してもらう。</p>
<p>③ 生活年齢に対し、本人を取り巻く環境をはじめ、本人の発達段階や障がいの状態、自己理解に凸凹が大きくなっていく傾向があり、年齢相応の学習が成立しにくいこと(→心の病気を抱えた生徒への資料も欲しいです。)</p>	<p>○精神疾患を有する児童生徒への対応についてコラムとして追記する。</p>
<p>④ 病弱教育の入門としてはいいと思う。初めて病弱教育に携わる方とか。また単一障がいとしての病弱さんには使えるかもしれないが、重度重複の児童生徒(本当にこの子たちには自立活動必要で大事だなあ実感しながら日々授業)に関しては……そして昨今の病弱さんは重複の方が多いのではないかと(肢体不自由とかぶるといふか…。でも文科の基調報告は基本的に単一障がいの児童生徒が中心であった。「病弱」「だからそうなのだろうとは思いますが、各病連の研究会に参加するたび、病弱教育って??? 重複の児童生徒のことや最近では精神の手帳をもつお子さんの指導についての研修ニーズを感じるし難しいなあと思う。)</p>	<p>○重度重複障がいを有する児童生徒への対応は、岩手県教育委員会が発行する特別支援教育指導資料 No. 51 自立活動指導資料(肢体不自由)を参照いただく。</p>

問7 「自立活動指導資料(病弱)」(試案)全体を通して、改善してほしい点や工夫を要する点がありましたら、御入力ください。

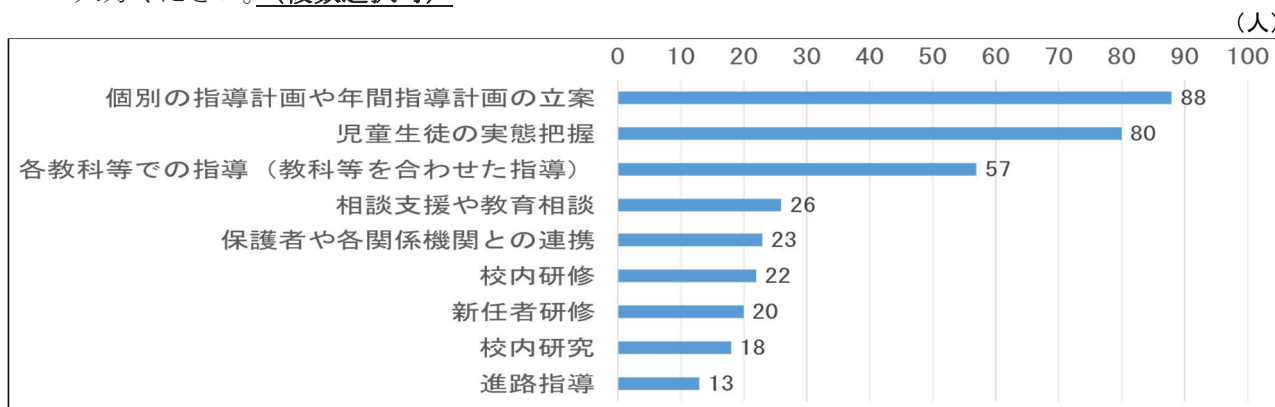
「自立活動指導資料(病弱)」(試案)全体の意見とその対応 (原文ママ)

意見(改善点・工夫を要する点)	対応
<p>① 6区分 27項目について、各項目ずつ具体例や指導の手立て等の記載があり、とても参考になった。他区分への関連付けについても盛り込まれており、参考になる。可能なら、それぞれの障がい種に対応させ、指導要領に記載されていない具体的指導内容例等も盛り込まれるとありがたい。</p>	<p>○授業実践の一部を指導内容例として追記する。</p>
<p>② 自分自身の経験から自立活動の個別の指導計画を作成する際、目標の設定に至るまでがとても大変であると感じました。そのための具体的な児童生徒がイメージできるような事例をいくつか加えていただければ、より活用しやすいと感じました。</p>	
<p>③ 第2章 自立活動の指導(3) 自立活動の指導内容及び留意点が具体的な事例が豊富だとより実践に活かしやすいと思う。</p>	
<p>④ 事例があると分かりやすい。(実態、長期目標、短期目標、授業内容まで一通りの流れ)</p>	

⑤ 具体的な指導案（例）（児童生徒の実態、病状がわかれば略案でよいと思います）がのっていると、経験の少ない若手の教師も「やってみよう」と思えるような気がしました。	○授業実践を補助資料として教育センターのホームページに掲載するので、そちらを見ていただく。
⑥ 事例としていくつか紹介があったり写真やイラストでの紹介があったりすると良いと思った。	○第3章に所属校での事例を教材の写真添えて追記する。
⑦ 精神疾患の場合、気持ちや感情に波があるため、自分自身を振り返られるタイミングが、そのときの状況に応じて様々だと感じている。そのため、心理的な安定を図るための指標や段階表があると評価しやすいと思った。	○自立活動における段階表は、文部科学省の資料には記載がなく、作成は難しい。児童生徒の様子をよく観察し、教員間で情報共有することが大切であることを追記する。共通の指標としてC o - M a M eを活用していただくこととする。
⑧ 病弱と言っても多岐にわたる。身体の病気と精神の病気とは分けて、特に精神に関わるところが詳しくあるといいと思います。	○精神疾患を有する児童生徒への対応についてコラムとして追記する。
⑨ 心の病気を抱えた生徒への資料も欲しいです。	
⑩ 多くの病弱の支援学校は、発達障がい二次障害によるうつ症状や精神病の児童生徒が増えていて対応が多様化している。学校ができる事、できない事、医療等関係機関との連携など盛り込む内容はまだあると感じる。	○第1章(6)「主な疾患と教育的配慮事項 ⑬うつ病等の精神疾患」に記載の情報に含む。 ○第1章(10)「関係機関との連携」に主治医との連携の方法と有効なタイミングをコラムとして追記する。
⑪ (6) 主な疾患と教育的配慮の「⑬うつ病等の精神疾患」に係り、「起立性調節障害（自立神経失調障害と混同されやすい、しかし併存もある等）」と「愛着障害（愛情不足ではなく、『概ね虐待の後遺症』という意味であり、発達障害や不適応による症状と考えるのが一般的である等）」、紙面に余裕があれば、「こらむ」でも良いので載せていただきたいです。特に「起立性調節障害」については、北上分教室において昨年度2名の生徒が転学してきており、うち1名は血圧の問題、もう1名はいわゆる不登校で、対人関係の不和による自律神経失調症状と推察できた生徒で、このような病弱教育のリアルも理解しておく必要があると考えたからです。ご検討の程、よろしくお願いします。	○文部科学省『虐待と子どもの心理』から、「愛着障害」の定義をコラムとして追記する。追記場所は第2章3人間関係の形成とする。 ○「起立性調節障害」に限らず、障がい名だけで児童生徒を理解することは難しい。第1章 病弱の状態の把握に含まれる。
⑫ 内容が細かいので、要点をどこかでまとめるなど、利用する人がすぐに見て確認できるものにしていただければよいと思います。	○必要な情報を短時間で探しやすいように工夫する。（総索引を付ける。目標設定シートとC o - M a M e アセスメントシートに逆引きを付ける。）
⑬ 文章中の強調のために、赤字、青文、アンダーライン、赤字+アンダーラインが使用されているが、使い分けがよく分かりませんでした。	○強調の仕方を統一する。
⑭ 大切な情報がたくさん盛り込まれているので、多くの人が目を通す機会が保障されるとよいと思います。（日々の業務で、じっくりと目を通せない方が多いと思うので。）研究会や研修でとりあげるなど…。	○完成後の課題としたい。

⑮ 後は実践回数だと思います。	○完成後の課題としたい。
⑯ 小中学校の病弱特別支援学級の状況や、特別支援学校との連携についても記述がほしい。	○本研究は、特別支援学校を対象としたため、病弱支援学級の状況は指導資料に取り上げない。連携については、第1章(10)関係機関との連携に含める。
⑰ 重度重複障害児に関わる指導事例についてもあるといい。	○自立活動指導資料(肢体不自由)を参照していただく。
⑱ 指導案の中に試案 p20 とかあるのですが、試案 p20 コミュなど何の項目なのかを記載できれば、更に見やすく分かりやすいものになるのではないのでしょうか。	○教育センターの Web ページには完成版の指導資料が掲載されるため、対応は難しい。
⑲ まずは、今回の研究をベースに検証していった方がよい。	○授業実践、調査結果を受けて指導資料を改善修正していく。
⑳ 資料を見やすく改善する。	
㉑ 本文中、「～が大切です。」という表現が何度か出てきますが、「～します。」のように当然おこなわれるものとして示したらどうでしょうか。※すみません。あくまでも個人の感想です。	○本文は、文部科学省や国立特別支援教育総合研究所等の資料の表記に準じた表記として統一する。
㉒ カットできるものがあれば量を減らしてほしい。	○情報の精選を行う。また、必要な情報を探しやすくする工夫をする。
㉓ どうしてもすべての生徒に当てはまらないことが出てくるので、これでいい。	

問8 自立活動の授業以外に、今後どのような場面で「自立活動指導資料(病弱)」を活用してみたいと思いますか。あてはまるものを選択ください。他に考えられるものがある場合は、次の問9で御入力ください。(複数選択可)



問9 問8で選択したものの他に考えられるものがある場合は、その理由と併せて御入力ください。

- ・普通校への資料提供等
- ・通常の学校にも疾患を持ち合わせている児童生徒は在籍するので、「自立活動資料」となっていますが、内容的には、小中高校の保健室等があれば、児童生徒の実態把握や支援方法などの助けになると思います。特別支援教育を目指す学生さんたちに読んでほしいです。
- ・特別支援教育を目指す学生さんたちに読んでもらいたいです。自分が学生の頃、知的の附属支援学校に行って知的障害について学ぶことはできましたが、病弱支援学校の様子を知る機会が少なかつたように感じました。
- ・他校とのオンライン学習で教員同士で事前に打ち合わせをする際などに、病弱教育の取り組みについて理解していただく際に活用できると思いました。そのようにすることで、実際にオンライン学習で他校の生徒と行う際に、障がいの理解について深め合う学習につながるのではと考えました。
- ・特に、年度途中の転入生においても、効果的だと思う。